

第3章

地域別構想

1. 地域区分

(1) 地域区分の検討要素

地域区分の設定については、以下のとおり、地域ごとに居住人口バランスや、将来のまちづくり構想を考えるにあたり、地域拠点や交通軸などの要素が特定の地域に極端に偏らないことも考慮し、地域区分を設定します。

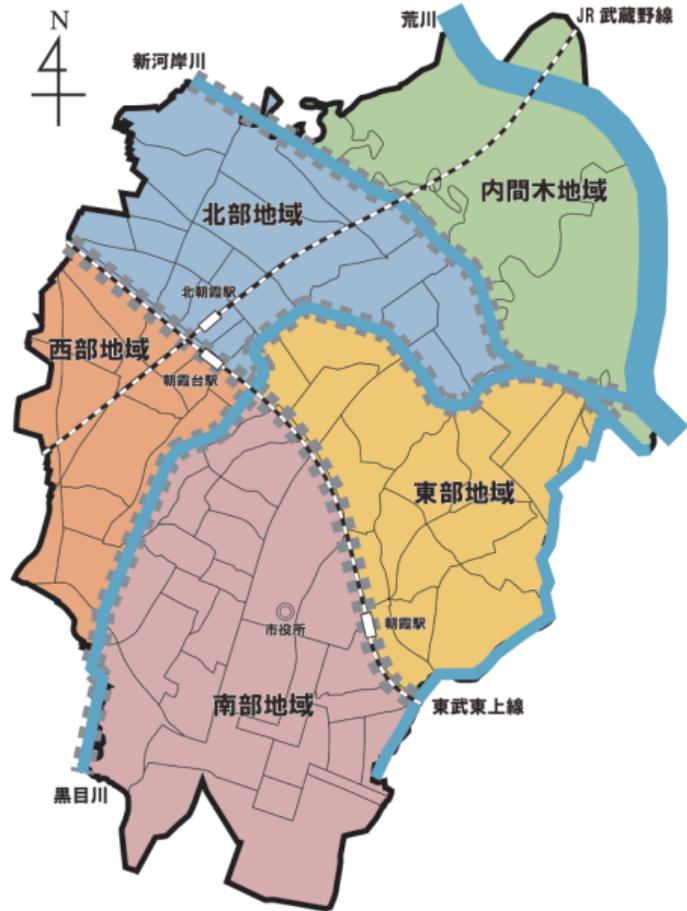
【地域区分の検討要素】

地域区分要素	朝霞市における状況
①行政サービスの単位となる区分	町字別では22区分、小学校区10区、中学校区5区、公民館利用区分として6区分があります。
②地域等による構造的な区分	<p>本市の区域を地形で分類すると武蔵野台地と荒川低地に大別されます。武蔵野台地は北朝霞駅・朝霞台駅周辺と朝霞駅、市役所、基地跡地周辺などが含まれ、市街地を形成している部分で、一方、荒川低地は荒川、新河岸川、黒目川沿いの部分となっています。</p> <p>基地跡地などがある南西側が高く、北東側の荒川に向かって低くなっていますが、市内の標高差は最大で約53mとなっています。</p> <p>※参照：朝霞市地形図（9ページ）</p>
③歴史的に継続している地域的つながりによる区分	現在の市域を形成するまでの町村単位としては、市域面積に対して比較的多い10区分となります。これまで大きく2期（明治22年（1889年）、昭和30年（1955年））の拡大を経て、現在の市域が形成されました。
④都市計画的施策として一体的にとらえる区分	<p>本市の全域が都市計画区域に指定され、市街化区域と市街化調整区域の境界はほぼ武蔵野台地と荒川低地により区分されますが、基地跡地及び陸上自衛隊朝霞駐屯地は市街化調整区域に指定されています。</p> <p>※参照：朝霞市都市計画図（25ページ）</p>

(2) 地域区分の設定

前ページの検討要素により、町字界を除けば地域区分の単位としては概ね5～10単位に区分することが可能と考えられます。

こうした生活圏や土地利用現況による境界要素のほかに、地域ごとの居住人口バランスや、地域拠点や交通軸などの要素が特定の地域に極端に偏らないことも考慮し、朝霞市都市計画マスタープランの地域区分については、次のとおり5地域に設定します。



【地域区分の対象町丁目】

地域	対象町丁目	面積 (ha)	人口 (人)	増減率 (%)
内間木地域	大字上内間木、大字下内間木、大字浜崎の一部、大字宮戸の一部、大字田島の一部	約 341	約 1,600	▲9.0
北部地域	北原1・2丁目、西原1・2丁目、朝志ヶ丘1～4丁目、宮戸1～4丁目、浜崎1～4丁目、田島1・2丁目、大字宮戸の一部、大字浜崎の一部、大字田島の一部	約 355	約 28,400	8.9
東部地域	岡1～3丁目、根岸台1～8丁目、仲町1・2丁目、大字岡、大字根岸、大字台、大字溝沼の一部	約 375	約 26,600	8.3
西部地域	三原1～5丁目、西弁財1・2丁目、東弁財1～3丁目、泉水1～3丁目、膝折町3丁目の一部、膝折町4丁目の一部、大字溝沼の一部、大字浜崎の一部	約 224	約 28,000	4.4
南部地域	本町1～3丁目、溝沼1～7丁目、幸町1～3丁目、栄町1～5丁目、青葉台1丁目、膝折町1・2・5丁目、膝折町3丁目の一部、膝折町4丁目の一部、大字溝沼の一部、大字膝折、基地跡地、陸上自衛隊朝霞駐屯地	約 543	約 49,400	7.4

出典：都市計画基礎調査（平成22年）。膝折3、4丁目、大字溝沼2、大字浜崎3、大字田島2、3の地域をまたがる町丁字名（小調査区）については、面積按分により算出している。

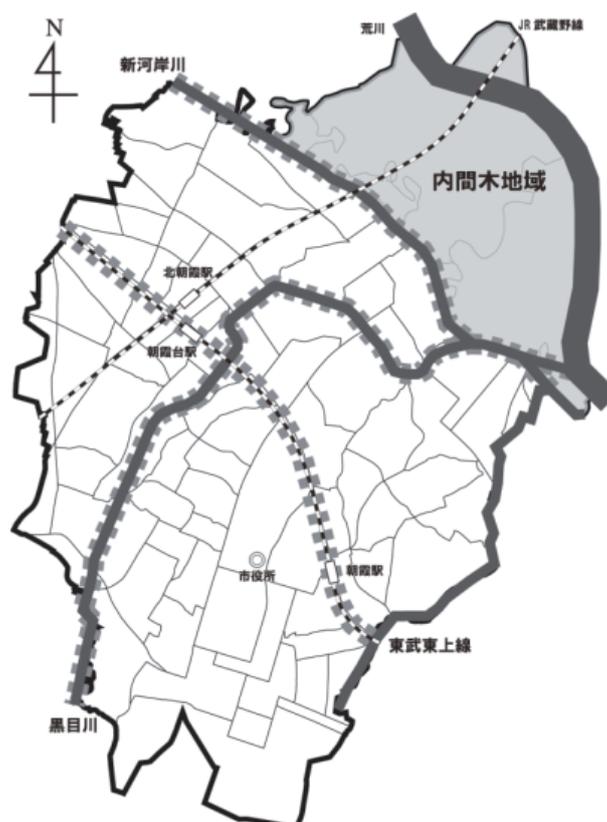
※「増減率」は、前回（平成17年）から平成27年（統計あさか）の人口の増減率を算出している。

2. 内間木地域（上内間木・下内間木等）

（1）地域の概要

- ・当地域は本市の北東側に位置し、地域の北東側を荒川が、南西側を新河岸川が流れ、川にはさまれた荒川低地で構成されています。地域の北側は志木市に、また、荒川をはさんだ東側はさいたま市と戸田市に接しています。
- ・当地域は、明治22年（1889年）に上内間木村・下内間木村・その他3村が合併し、内間木村として誕生しました。昭和30年（1955年）には朝霞町と合併し朝霞町に、その後、昭和42年（1967年）に市制施行により朝霞市となりました。
- ・地域の全域が市街化調整区域で、古くからの農地及び集落地（市街化調整区域内において人が集まって生活している地域）となっており、他地域に比べ緑の多い田園風景が広がっています。地域の北側には、工業系施設や倉庫などの土地利用が見られ、既存集落地との調和を図ることが求められています。
- ・地域の南側に位置する朝霞調節池や東端を流れる荒川の土手は、水害対策としての機能だけではなく、レクリエーション（休養・娯楽）の場として利用が期待されます。
- ・平成22年（2010年）に国道254号バイパス（第1期整備区間）が暫定2車線で供用開始しました。現在も志木方面につながる第2期整備区間の整備を進めています。
- ・地域の面積は約341haで本市全体の約19%を占めていますが、人口は約1,600人で市全体の約1%を占めるにとどまっています。当地域の人口は、平成17年（2005年）以降、大きく減少（約9%）しています。

【朝霞市における内間木地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

地域の現況及びこれから 10 年のまちづくりの課題について、地域別懇談会で出された意見を中心に次のとおり整理します。

現 況	課 題
<p>■土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の全域が市街化調整区域となっています。 ・地域の北側は、工業系土地利用がされていますが、その他は集落と農地が広がっています。 ・飲食店などの商業系土地利用はほとんど見られません。 ・資材置き場や残土置き場などが増加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然的土地利用が多くを占めていますが、工業系の多くの既存施設があり、既存集落との混在が見られ、適切な誘導が求められます。 ・荒川河川敷の広大な緑地が近郊緑地保全区域に指定され、今後も維持を図りながら、農地・朝霞調節池などの自然的要素の活用も求められます。 ・農地として保全する地域の位置づけや朝霞調節池や河川などの自然環境を活かしたまちづくりが必要です。 ・国道 254 号バイパスの利便性を活かした土地利用が求められています。 ・近隣住民の買物環境の充実が求められています。 ・資材置き場や残土置き場などの増加による、周辺環境の悪化が危惧されています。
<p>■道路交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川に囲まれた地域であり、本地域と市内他地域を結ぶ主要な幹線道路は 2 路線のみです。 ・バス路線は、路線数、運行本数も少ない状況です。 ・道路幅員が狭く、歩道の整備が必要な箇所が多くあります。 ・国道 254 号バイパス第 1 期整備区間は暫定 2 車線で供用開始しました。 ・大型車両の通行が多く、慢性的な渋滞が続くため、集落地内の通過交通も多く見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域に比べ鉄道・バスなどの公共交通網へのアクセスが不足しているため、コミュニティバスルートの見直しなど、その向上が望まれます。 ・国道 254 号バイパスの早期整備による市の骨格的な道路の整備が望まれます。 ・自動車と歩行者の道路機能が混在しており、通学時の危険性も指摘されていることから、安全な歩行者空間の確保が求められます。 ・通学路の安全性の確保、またルートの見直しなどが必要です。

■市街地整備

- ・地域内に小中学校がなく、通学距離が長い状況です。
- ・公園やスポーツ施設などの整備された公共空間は内間木公園など、少ない状況です。
- ・市営の温浴施設である湯〜ぐうじょうを継続することが困難となり、平成25年（2013年）に廃止となりました。

■緑・景観・環境共生

- ・水田、畑などの良好な農地が広がっています。
- ・荒川、新河岸川など良好な水辺空間を有する自然環境に恵まれています。
- ・かつては地域住民による草刈などが各所で行われていましたが、人口の減少などにより困難な状況です。河川敷では、電化製品や乗用車などの不法投棄も見られます。

■安全・安心

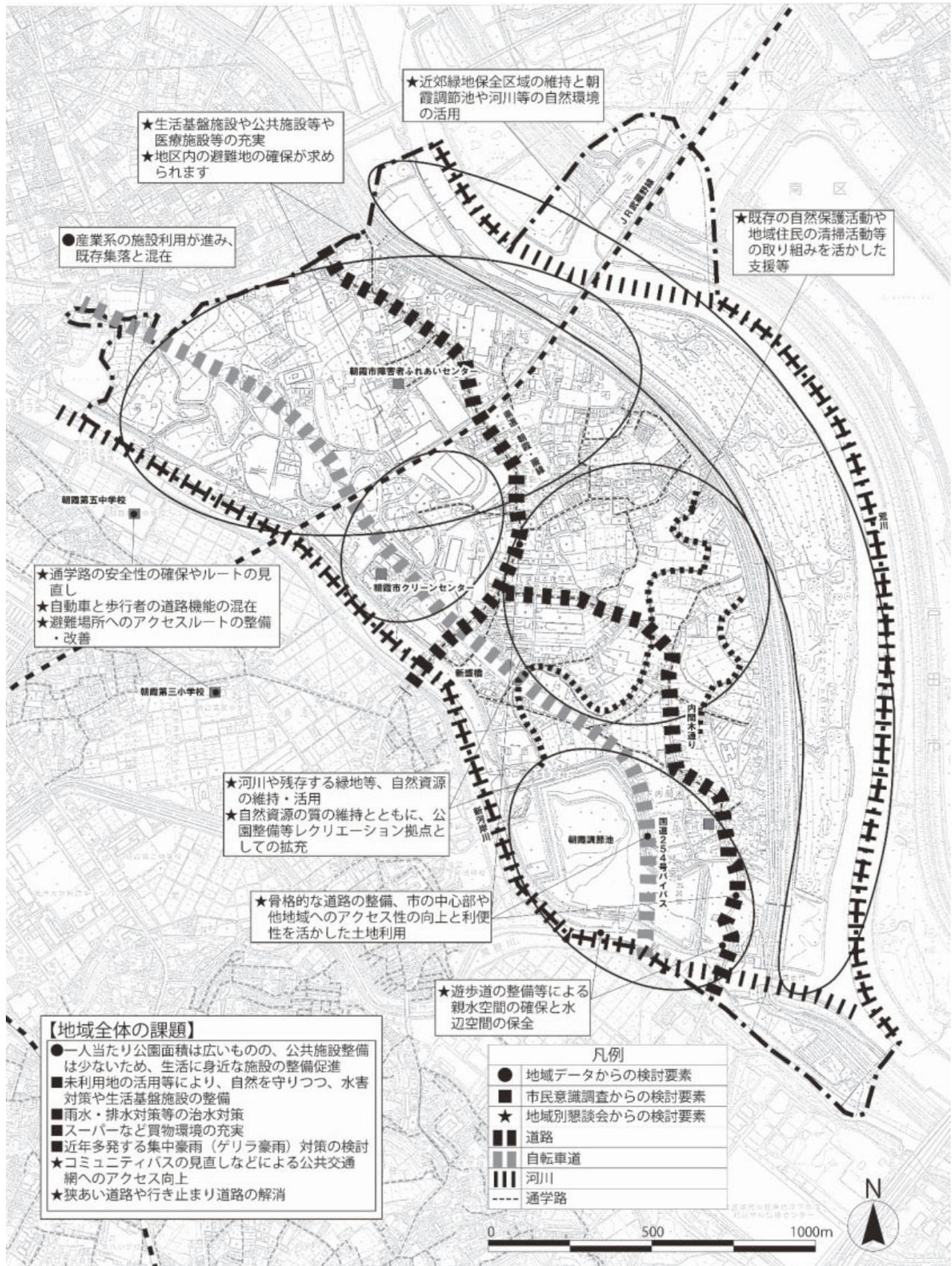
- ・大雨時には浸水などの水害が頻繁に発生しています。
- ・新河岸川からの水害を防止する施設である朝霞調節池が平成20年（2008年）に完成しました。
- ・上内間木に民間の協力のもと災害時の一時避難所が設置されました。
- ・避難場所が地域内に少ないため、避難場所までの距離は遠くなっています。

- ・下水道などの生活基盤施設、日常生活に重要な公共施設及び医療施設などの誘致圏（施設利用の想定される範囲）外が多いため、その充実が望まれます。
- ・廃止となった湯〜ぐうじょうは、早期の跡地利用が求められています。

- ・河川や残存する緑地などの保全、自然資源の質の維持・向上、ビオトープ（動植物の生息・生育空間）などの公園整備など、レクリエーション（休養・娯楽）拠点としての拡充が求められます。
- ・既存の自然保護活動や、地域住民による水路清掃活動などの従来からの取組を活かし、その支援などが望まれます。
- ・水路の復元や遊歩道としての整備など、良好な水辺空間の保全が求められます。

- ・狭あい道路や行き止まり道路の解消などによる避難場所へのアクセスの向上が望まれます。
- ・近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）対策の検討が求められています。
- ・主要な避難場所が地域外でアクセスも困難なことから、地域内に一時的な避難場所の確保が望まれます。
- ・複数の河川に囲まれた地域であり、雨水・排水対策なども含め、治水対策や遊歩道の整備などによる親水空間の確保が求められます。

【内間木地域の課題図】





【朝霞市障害者ふれあいセンター】



【新河岸川】

(3) 地域づくりの目標 (将来像)

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

①将来像

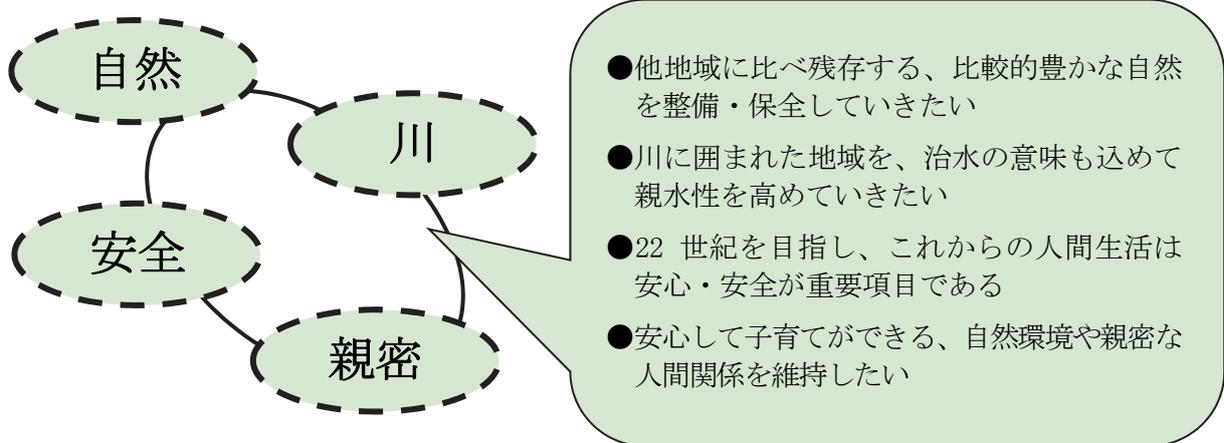
あざやか

あ彩に **さ**爽やかに **か**川面奏でる **し**春夏秋冬
う潤い **ち**調和 **ま**真心の **ぎ**義理と愛情の郷
 ～残存する豊かな自然の整備保全～

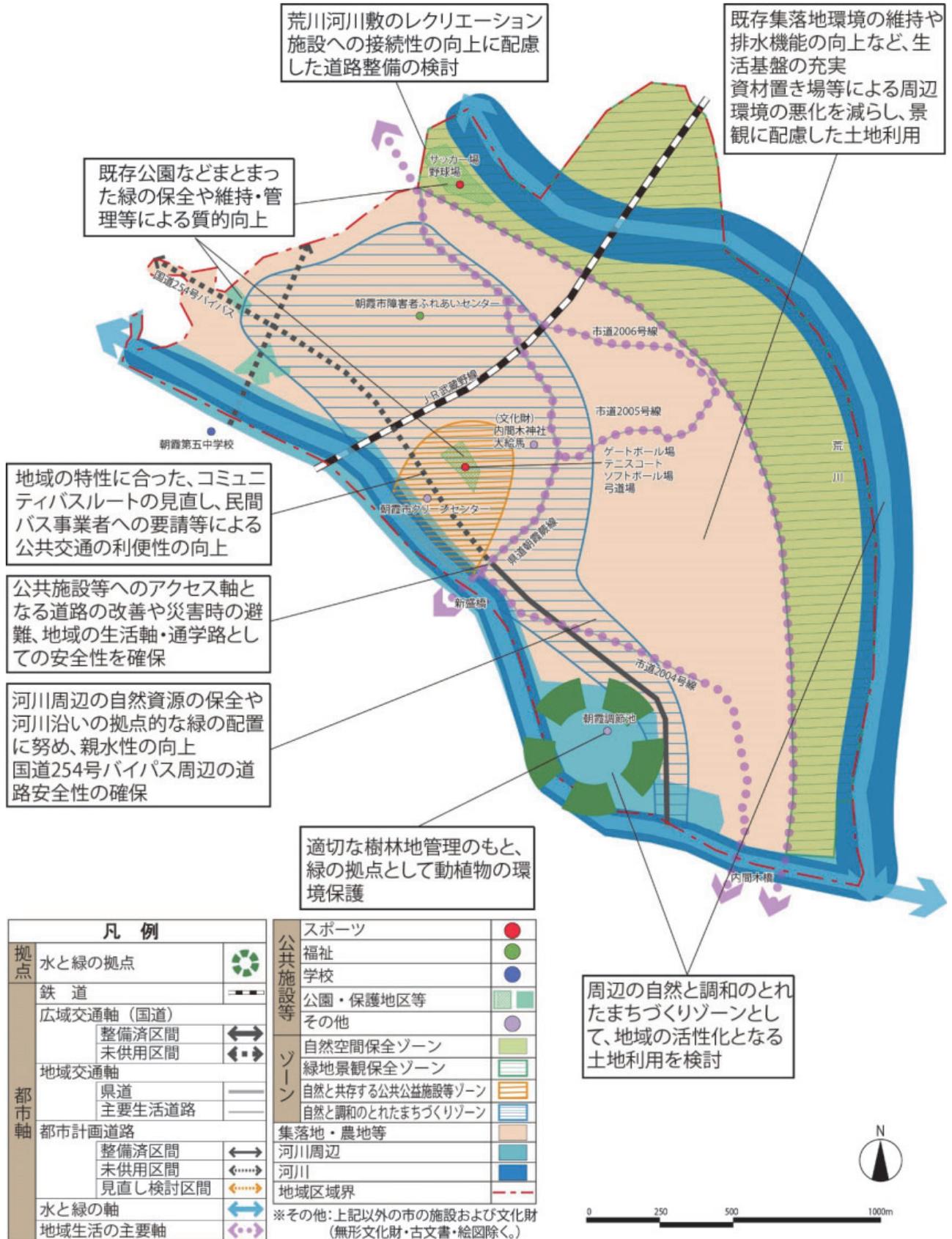
②まちづくりの方向性

- ・ 残存する自然資源の保全・維持管理の充実、産業系土地用途の集落地（市街化調整区域内において人が集まって生活している地域）などへの配慮を充実し、良好な自然環境や農地に囲まれた潤いのある住み良いまちを目指します。
- ・ 下水道などの生活に身近な都市施設整備の充実、道路交通環境の改善や公共交通網の充実を図り、より快適に、そして水害などの災害の安全性を高め、安心・安全に暮らせるまちを目指します。
- ・ 新河岸川流域の親水性を高めるとともに、アクセスの改善を図り他地域との交流促進を目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ
 (地域別ワークショップより)



【内間木地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

内間木地域の地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本として「土地利用」、「道路交通」、「市街地整備」、「緑・景観・環境共生」、「安全・安心」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

①土地利用

- ・ 上内間木などの既存集落地については、残存する緑や農地の保全により集落地環境を維持します。また、産業系の土地利用も見られることから、施設が立地する周辺環境への配慮により適切な誘導を図ります。
- ・ 国道 254 号バイパスは、一部が供用開始され交通の利便性が向上したことから、その沿道については周辺の自然と調和のとれたまちづくりゾーンとして地域の活性化に資する土地利用を検討します。(キーワード 3)
- ・ 朝霞市障害者ふれあいセンターのように公共性の高い施設を活用するとともに教育や文化・福祉などの機能充実について検討し、地域生活の利便性向上に努めます。
- ・ 資材置き場などによる周辺環境の悪化を減らし、「住み心地」の良いと感じられる景観の形成に配慮します。

②道路交通

- ・ 県道朝霞・蕨線や地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者及び自転車利用の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保します。(キーワード 6, 8)
- ・ 国道 254 号バイパスの一部を供用開始し交通量が増加したため、周辺道路の安全性を確保します。(キーワード 7)
- ・ 新河岸川を渡り、北朝霞駅・朝霞台駅など本市の都市機能が集積する地区へのアクセスを向上させる道路・橋梁の整備を検討します。(キーワード 19)
- ・ 多様な移動ニーズに応じた運行サービスの検討など、地域の特性に合ったコミュニティバスルートの見直し、民間バス事業者への要請などにより公共交通の利便性向上に努めます。(キーワード 9)

③緑・景観・環境共生

- ・ 荒川、新河岸川に囲まれ、広大な河川敷を有していることから、水と水辺の自然資源の保全に努めます。(キーワード 12)
- ・ 荒川、新河岸川、地域内の水路などの水と水辺に残存する緑の保全や、遊歩道の整備・充実の検討などにより水辺空間の保全・活用を図ります。(キーワード 12)
- ・ 地域に残存する緑として、既存の公園、農地、朝霞調節池周辺などについても位置づけ、まちづくりへの一層の活用を検討します。(キーワード 12)

- ・近郊緑地保全区域である、荒川沿いのまとまった緑の保全とともに、余暇活動の場としての活用を図ります。(キーワード 12)
- ・貴重な湿地環境が残されている朝霞調節池は、適切な樹林地管理のもと、緑の拠点として自然環境の維持と保全や動植物の環境保護に努めます。(キーワード 12)
- ・内間木公園などの施設の修繕などを計画的に進めるとともに、ユニバーサルデザインなど、誰でも安心して利用できる施設づくりを推進します。(キーワード 25)
- ・農業生産の基盤となる農地の貸し借りを促進し、集約化を図り、農地の保全や有効活用を促進します。(キーワード 10)

④市街地整備

- ・合併処理浄化槽などの設置充実とともに、下水道処理区の拡充検討も視野に入れ地域の排水処理機能の向上を促進します。(キーワード 16)

⑤安全・安心

- ・集落地と公共施設を結ぶ道路網の充実により、災害時の避難経路の確保・充実に努めます。(キーワード 21)
- ・河川に囲まれる地域特性をふまえ、低地部の水害に対する安全性の維持・確保に資するよう雨水・排水対策などを含め、総合的な治水対策に努めます。また、荒川にかかるJR武蔵野線の橋梁部で局地的に堤防が低い区間においては盛土などにより高さを確保するよう関係機関に働きかけていきます。(キーワード 20)
- ・市民との協働により、防災に関する課題の把握や情報の共有化を積極的に進めます。

総合計画と連携してまちづくりに取り組む主な内容

- ・農地転用による資材置き場や駐車場の増加をふまえ、市民と行政の協働により、地域づくりの目標を具体化するためのまちづくりのルールを検討すること
- ・自然資源を活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むイベントやコミュニティ活動・組織作りを支援すること(キーワード 26)
- ・水路清掃や水辺空間の保全活動など、地域住民の活動支援を促進すること

【地域別懇談会 内間木地域活動風景】

朝霞市都市計画マスタープランの見直しに向けて、平成 27 年（2015 年）8 月までに各地域などで計 5 回、地域づくりの方針をまとめる地域別懇談会「10 年後のあなたの地域について考えてみませんか」を、各地域の方々の協力のもと開催しました。

第 1 回 10 年を振り返り、「地域の魅力と課題」をワークショップ形式で話し合い



＜話し合いの結果＞

地域の魅力：防災（調節池、防災倉庫）／丸沼芸術の森／荒川・黒目川・新河岸川の土手（散歩に最適）

地域の課題：水害が多い／歩道整備／狭あい道路の改善／大型車が多い／交通の便が悪い／産業廃棄物が多い

第 2 回 「地域の魅力と課題」を実際に見に行く「タウンウォッチング」を実施



＜タウンウォッチングで気づいたこと＞

- 国道 254 号バイパスの早期開通で都市計画を成功させよう
- 田畑と「道の駅」を活かしたプロジェクトづくり
- サイクリングロードを作り、美しい景色を楽しむ
- 治水対策（調節池が必要） など

第 3 回 第 1 回・第 2 回の結果をふまえた地域のまちづくりの検討



＜話し合いの結果＞

- 土地利用：湯～ぐうじょうの跡地利用
- 道路交通：国道 254 号バイパス周辺の道路の安全対策
県道朝霞・蕨線の道路拡幅の推進
- 安全・安心：浸水防止対策と水害に対応した避難場所・体制の確保 など

第 4 回 地域のまちづくりに関する意見交換会（考えられる取組について）



＜話し合いの結果＞

「浸水防止対策と水害に対応した避難場所・体制の確保」について

- 安全な避難所及び避難体制の確保
 - ・逃げ込める（歩いて行ける距離）避難所を分散して配置／地域単位における災害時対応の検討／一時避難所の増設 など
- 防災の取組
 - ・地域住民の意見をもとに、ハザードマップ避難路の検証、修正／住民自治の意識を高める／行政による、地域の意見をまとめる仕組みづくり など

第 5 回 合同成果発表会



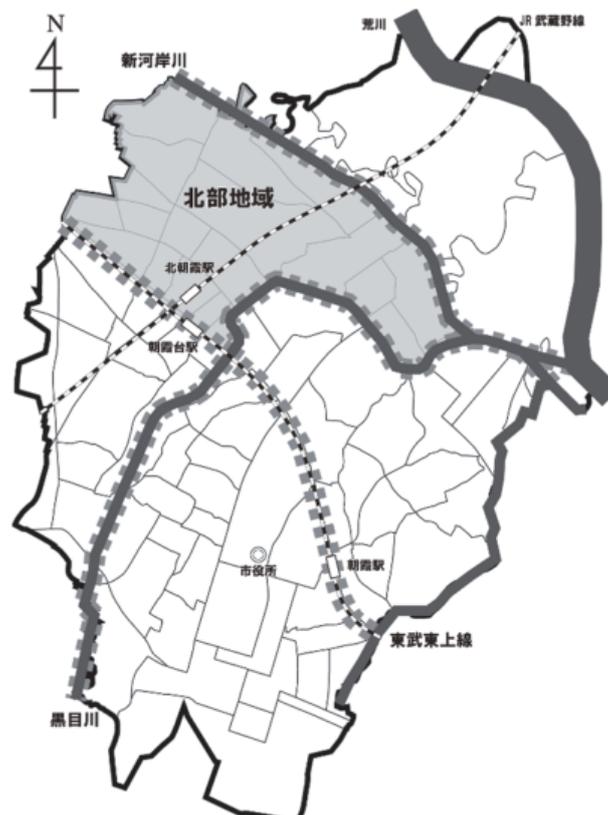
- 各地域からの成果発表
- 意見交換

3. 北部地域（北原・西原・朝志ヶ丘・宮戸・浜崎・田島等）

（1）地域の概要

- ・当地域は、本市の北側に位置し、地域の北側を新河岸川が、南側を黒目川が流れています。地域の北西側は志木市に接しています。
- ・当地域は、明治22年（1889年）に宮戸村・浜崎村・田島村・その他2村が合併し、内間木村として誕生しました。昭和30年（1955年）には朝霞町と合併し、その後、昭和42年（1967年）に市制施行により朝霞市となりました。
- ・地域の南西側には、北朝霞駅・朝霞台駅があります。
- ・地域の東側から南側は市街化調整区域で、農地が広がっています。一方、西側の駅周辺は市街化区域で、商業地域や住宅地となっています。
- ・駅周辺は、土地区画整理事業が完了しており、また、地区計画により商業集積が図られています。
- ・平成23年（2011年）に宮戸2丁目地区（旧暫定逆線引き地区）の約10.8haが市街化区域に編入されました。
- ・地域の面積は約355haで、本市全体の約19%を占め、地域内人口についても約28,400人で市全体の約21%を占めています。地域内の人口は、駅周辺の地域を中心に平成17年（2005年）以降、最も人口が増加した（約8.9%増）地域となっています。

【朝霞市における北部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

地域の現況及びこれから 10 年のまちづくりの課題について、地域別懇談会で出された意見を中心に次のとおり整理します。

現 況	課 題
<p>■土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の約 60%が市街化区域に指定され、そのうち南側の駅周辺は土地区画整理事業が完了しており、商業機能の集積が見られます。 ・地域の北側は形成年代が古く、小規模な開発による宅地化が進んできた地区です。 ・旧暫定逆線引き地区で市街化区域に編入された宮戸 2 丁目地区には、農地などが多く残っています。 ・河川沿いの市街化調整区域では一部集落があるものの概ね農地となっています。良好な田園風景が広がっていますが、相続時などに土地転用が多く見られます。 ・わくわくどーむ（健康増進センター）や産業文化センターなど、市街化調整区域に公共施設が多く立地しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR武蔵野線と東武東上線の乗換駅となっている北朝霞駅・朝霞台駅があり、多くの駅利用者の流動を活かした商業的土地利用の充実を図るとともに、生活に身近な商業環境の充実など、バランスのとれた住環境の形成・保持が求められています。 ・市街地には農地の混在が見られ、保全すべき農地と住宅の整序が望まれます。 ・市街化調整区域内に立地する公共施設へのアクセスの向上が求められています。
<p>■道路交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路が少ない状況です。 ・JR武蔵野線が地域の東西に、東武東上線が地域界を南北に横断しており、北朝霞駅・朝霞台駅が設置されています。 ・駅前に地下自転車駐車場などが設置されていますが、放置自転車が商店前や広場などに存在します。 ・都市計画道路が決定されていますが、未整備な部分があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車と歩行者の道路機能が混在しており、通学時の危険性も指摘されていることから安全な歩行者空間の確保が求められます。 ・駅周辺の駐輪場のさらなる有効活用や公共交通機能の充実など、使いやすい駅前空間づくりが必要です。 ・抜け道などとして利用されている生活道路について、面的速度規制や一方通行化などの導入による交通安全対策が求められています。 ・自転車道と黒目川を結ぶなど、自転車道のネットワーク化が求められています。

■市街地整備

- ・都市公園が少なく、地域内人口1人当たりの地域内都市公園面積が最も狭くなっています。
- ・住宅が密集した地域があり、地震・火災などに対する防災対策が懸念されています。

■緑・景観・環境共生

- ・水田は減少傾向にあります。新河岸川沿いにまとまった農地が残存し、良好な田園風景を形成しています。
- ・黒目川・新河岸川など、良好な水辺空間を有する自然環境に恵まれています。
- ・斜面林など、緑豊かな空間が点在しますが、その多くは個人の所有地（民地）です。
- ・黒目川沿いは桜並木の遊歩道が整備されています。

■安全・安心

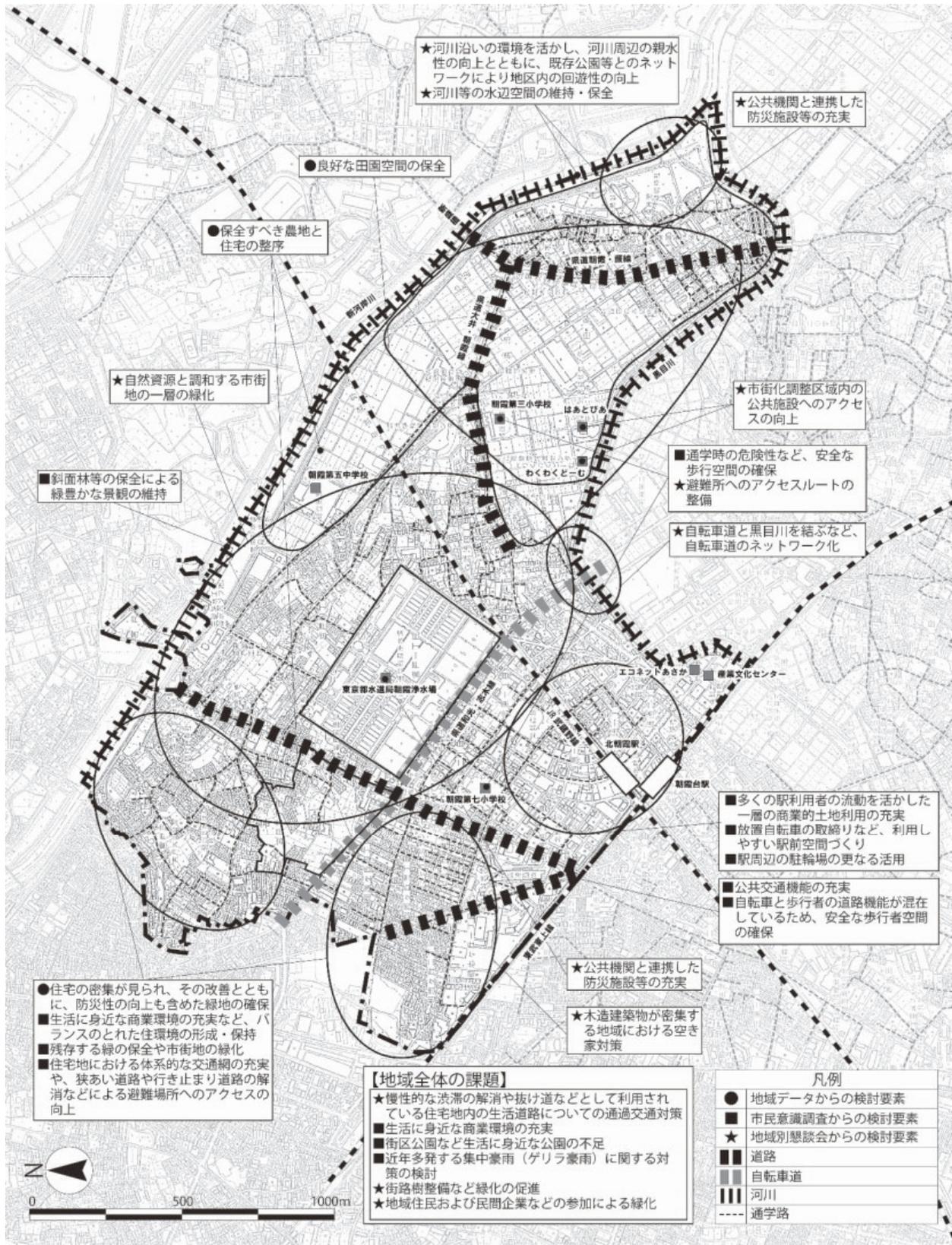
- ・狭い道路が多く、防災上危険な地域があります。

- ・街区公園など生活に身近な公園が不足しており、その充実とともに、既存公園の緑化や環境の改善など質的な向上が望まれています。
- ・住宅が密集した地域も見られ、その改善とともに防災性の向上も含めた緑地の確保が求められます。

- ・残存する自然資源と調和し、都市景観へ配慮した市街地の一層の緑化の推進が求められます。
- ・斜面林の保全による緑豊かな景観の維持が望まれます。
- ・地域住民及び民間企業などの参加による緑化の推進が必要です。
- ・河川沿いの環境を活かし、河川周辺の親水性の向上とともに、既存公園などをつなぐルートを形成するなど、地域内の水と緑の回遊性の向上が望まれます。

- ・住宅地における体系的な交通網の充実や、狭あい道路や行き止まり道路の解消などによる避難場所へのアクセスの向上が望まれます。
- ・地域内に立地する東京都朝霞浄水場などの公共機関と連携した防災機能の充実が求められています。
- ・近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）に関する対策の検討が求められています。
- ・木造の建築物が密集する地域における空き家対策が求められています。

【北部地域の課題図】





【産業文化センターで開催される「北朝霞どんぶり王選手権」】



【わくわくどーむとラベンダー畑】

(3) 地域づくりの目標 (将来像)

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

①将来像

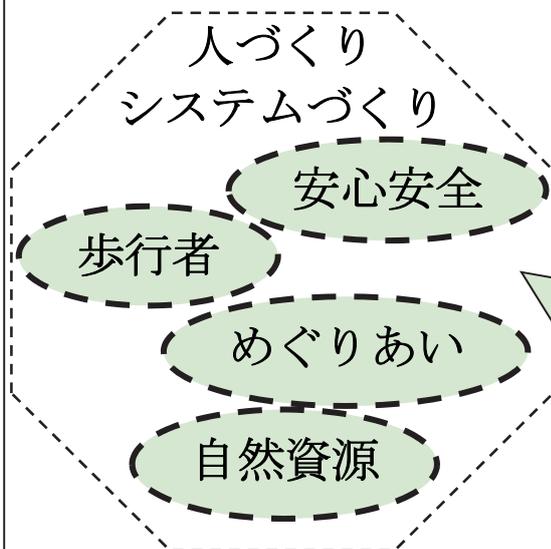
身近なみどりにあふれ 人がめぐりあい

心豊かに暮らす まち

②まちづくりの方向性

- ・かつて無秩序な市街化が形成されてきた既存市街地における、狭あい道路（幅員4m未満）の改善などにより、安心・安全に暮らせる快適な住環境の形成を目指します。
- ・黒目川・新河岸川の河川沿いの空間の保全とともに空閑地の活用による公園の確保や残存する農地や緑地の保全を図り、河川や公園などとのネットワーク化を推進し、一体的な活用を目指します。
- ・駅周辺においては、商業・業務機能のバランスよい配置などにぎわいの拠点にふさわしい環境づくりを図るとともに、居住地においては生活に身近な商業機能の充実を目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ
(地域別ワークショップより)



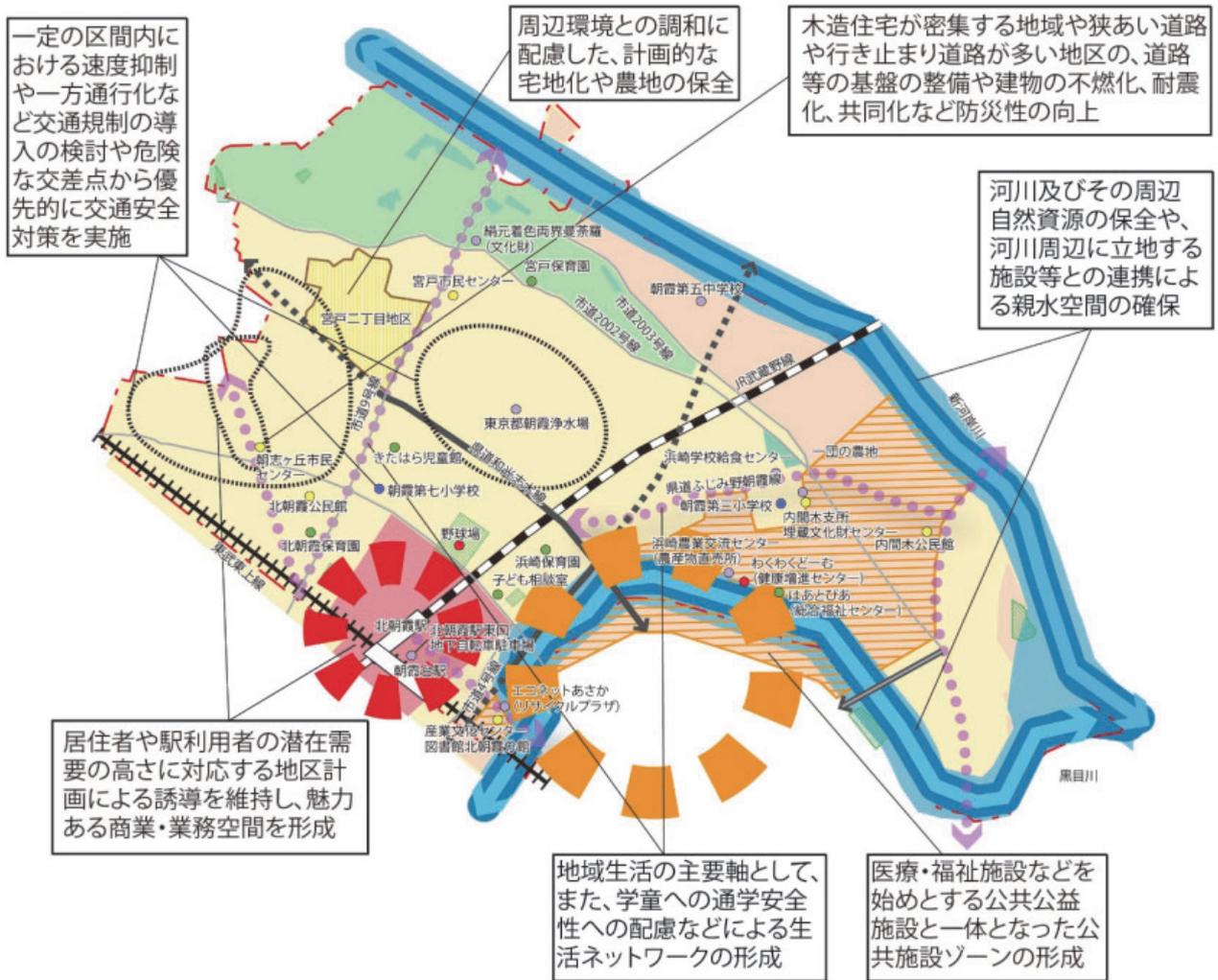
●安心安全な住環境・道路環境づくりを図り、心も体も豊かになれるまちづくりをしたい。

●道路の住み分け*や回遊性の向上を図り、人々がめぐりあえるまちづくりをしたい。

※車道の拡幅や歩行者専用道路整備など、一律ではなく特徴により整備内容をかえること。

●残存する朝霞の“たからもの”とも言える資源を子ども達に残し受け継いでいきたい。

【北部地域の地域づくり方針図】



凡例		
拠点	都市拠点・地域拠点	
	医療と福祉の拠点	
地区	新市街化地区	
	鉄道	
都市軸	広域交通軸（国道）	
	整備済区間	
	未供用区間	
	地域交通軸	
都市計画道路	県道	
	主要生活道路	
	整備済区間	
	未供用区間	
水と緑の軸	見直し検討区間	
	水と緑の軸	
地域生活の主要軸		

スポーツ	
教育・文化・コミュニティ	
福祉	
学校	
公園・保護地区等	
その他	
住居系ゾーン	
低層住宅地	
中高層住宅地	
商業系ゾーン	
自然と共存する公共施設等ゾーン	
集落地・農地等	
河川周辺	
河川	
地域区域界	

※その他：上記以外の市の施設及び文化財（無形文化財・古文書・絵図除く。）



(4) 地域づくりの基本方針

北部地域の地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本として「土地利用」、「道路交通」、「市街地整備」、「緑・景観・環境共生」、「安全・安心」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

①土地利用

- ・北朝霞駅・朝霞台駅周辺の多くの居住者や駅利用者を有する潜在需要の高さに対応するよう今後も地区計画による誘導を維持し、両駅周辺におけるにぎわいの演出や魅力ある商業・業務空間の形成を図ります。(キーワード 2, 14)
- ・黒目川沿いに、隣接する西部地域や東部地域の医療・福祉施設などを始めとする公共公益施設と一体となった公共施設ゾーンの形成を図るとともに、北朝霞駅・朝霞台駅周辺との連携強化を図ります。(キーワード 4)
- ・朝志ヶ丘地区に形成されている地域の活力を支える既存商店街の安全・快適に買物ができる生活に身近な商業環境の充実を支援します。(キーワード 2)
- ・宮戸地区などの農地については、農業生産の基盤となる農地の貸し借りを促進し、農地を集約するとともに、農地を保全するなど、農地の有効活用を促進します。また、宮戸2丁目地区地区計画の区域内の農地については、周辺環境との調和に配慮した、計画的な宅地化や農地の保全などを進めます。(キーワード 10)

②道路交通

- ・北朝霞駅・朝霞台駅周辺の駐車場施設や自転車駐輪施設の適正な運用や交通施設の改善などにより、駅利用者・歩行者に配慮した安全な歩行者空間を確保します。(キーワード 2)
- ・県道大井・朝霞線や地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者及び自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保します。(キーワード 6, 7, 8)
- ・宮戸・浜崎・田島地区など駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の整備を進め、地域に立地する公共施設や避難場所などへのアクセスを高めます。(キーワード 21)
- ・朝霞第七小学校の周辺や朝志ヶ丘などの住宅地においては、一定の区間内における速度抑制や一方通行化など交通規制の導入を検討します。(キーワード 7, 8)
- ・通学路や北朝霞駅東側、朝霞浄水場周辺など危険な交差点から優先的に交通安全対策を実施します。(キーワード 8)

③緑・景観・環境共生

- ・北割公園・浜崎公園など、既存公園の質的向上とともに、地域に残存する未利用地などの活用により生活に身近な広場や公園を充実していきます。(キーワード 10)

- ・黒目川・新河岸川、地域内の水路などの水と水辺に残存する緑の保全や、総合福祉センター（はあとぴあ）、健康増進センター（わくわくどーむ）などの周辺公共施設との連携により親水空間づくりを推進します。（キーワード 4）
- ・地域を特徴づける宮戸地区の新河岸川沿いに武蔵野台地の崖線に残存する斜面林の保全について検討します。（キーワード 12）
- ・地域の主要施設（鉄道駅、商店街、公共施設、公園など）を河川や道路で結ぶとともに、街路樹などによる道路の緑化を推進します。また、鉄道駅と黒目川を結び、川沿いを散策できる歩行者及び自転車ネットワークや地域生活の主要軸の形成にも資する水と緑の軸づくりを検討します。（キーワード 11, 12）
- ・地域の関係者が連携し、協力するなど既存宅地の生垣化などによる住宅地の緑化を進め、まちなみ形成や潤いのある住環境の向上を促進します。（キーワード 11）

④市街地整備

- ・朝志ヶ丘地区など、木造住宅が密集する地域や宮戸地区のように狭あい道路や行き止まり道路が多い地区については、道路などの基盤の整備を進めるとともに、建物の不燃化、耐震化、共同化など防災性の向上を促進し、良好な住宅市街地の形成を誘導します。（キーワード 15, 21）

⑤安全・安心

- ・地域防災計画に基づき、災害時の避難場所の確保とともに、東京都朝霞浄水場などとの連携による災害時の連絡体制の強化を検討します。また、住宅が密集する朝志ヶ丘地区などについては、道路や公園などのオープンスペースの確保を図ります。（キーワード 15, 21, 22）
- ・河川に囲まれる地域特性をふまえ、低地部の水害に対する安全性の維持・確保に資するよう雨水・排水対策なども含め、総合的な治水対策に努めます。（キーワード 20）
- ・高齢化や核家族化の進展とともに、顕在化している管理不全な空き家等の問題は、「空き家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき改善に取り組む、良好な生活環境の確保に努めます。（キーワード 24）

総合計画と連携してまちづくりに取り組む主な内容

- ・行政による取組のほか、行政は、違法駐車や不法投棄対策、防災対策など、地域住民の活動の支援を促進すること
- ・市民と行政の協働による、よりよいまちづくりへの取組を推進すること
- ・自然資源等を活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりを検討すること
- ・野菜などの地産地消ができる環境を整えること

【地域別懇談会 北部地域活動風景】

朝霞市都市計画マスタープランの見直しに向けて、平成27年（2015年）8月までに各地域などで計5回、地域づくりの方針をまとめる地域別懇談会「10年後のあなたの地域について考えてみませんか」を、各地域の方々の協力のもと開催しました。

第1回 10年間を振り返り、「地域の魅力や課題」をワークショップ形式で話し合い



＜話し合いの結果＞

地域の魅力：交通の便が良い／健康づくり（わくわくドーム）／安全対策（減速、反射テープ）／自転車道ができた
地域の課題：交通事故（交差点）／歩道の整備／集中豪雨対策／医療・介護施設がない

第2回 「地域の魅力と課題」を実際に見に行く「タウンウォッチング」を実施



＜タウンウォッチングで気づいたこと＞

- ゾーンによる交通規制の検討や一方通行化の実現を要望
- 商店街が利用される工夫が必要
- 新河岸川の下に歩道があると良い
- 黒目川が思っていたよりも綺麗 など

第3回 第1回・第2回の結果をふまえた地域のまちづくりの検討



＜検討結果＞

- 道路交通：**小学校周辺の通学路の安全対策／地域住民による安全対策（一方通行によるモデル地区化）
- 緑・景観・環境共生：**駅と黒目川を結び、川沿いを散策できる歩行者及び自転車ネットワークの充実
- 安全・安心：**雨水対策を重点的に進める など

第4回 地域のまちづくりに関する意見交換会（考えられる取組について）



＜話し合いの結果＞

「小学校周辺の通学路の安全対策」について

- 関係者が集まって話し合う場づくり（情報交換、共有、実行）
- ・通学路の現状把握／児童と一緒に通学／時間制限付きの交通規制／児童に対するアンケートの実施／事例研究 など

「地域住民による安全対策（一方通行によるモデル地区化）」について

- 関係者による実態把握
- ・地域住民、通行者などへの認識調査／交通量調査／事故の量、状況の把握／一方通行化となった場合の地域への影響調査 など

第5回 合同成果発表会



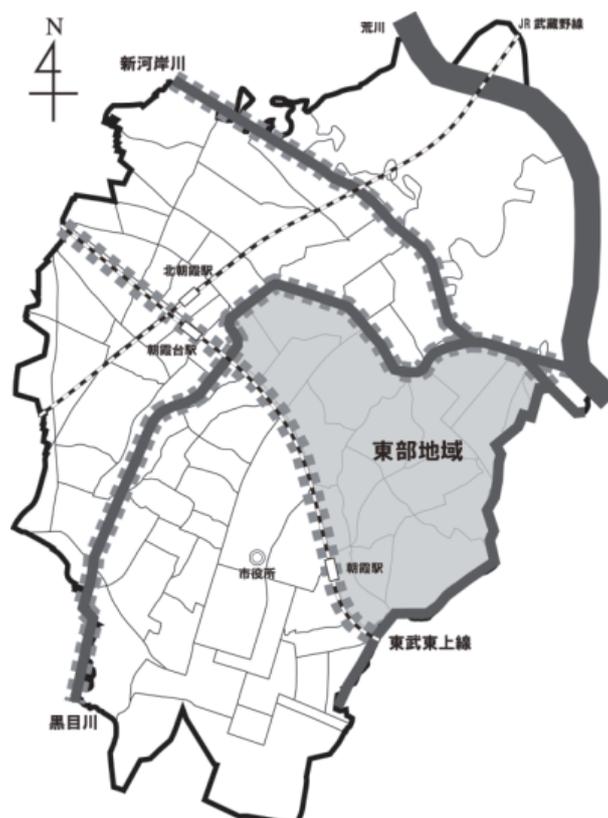
- 各地域からの成果発表
- 意見交換

4. 東部地域（岡・根岸台・仲町等）

（1）地域の概要

- ・当地域は、本市の東側に位置し、地域の北側を黒目川が流れ、東端で新河岸川と合流しています。地形は川沿いの荒川低地と内陸部の武蔵野台地となっており、地域の東南側は和光市に接しています。
- ・当地域は、明治22年（1889年）根岸村・台村・岡村が膝折村・その他2村と合併し、膝折村となりました。昭和7年（1932年）の町制施行時に朝霞町として改名し、昭和30年（1955年）には内間木村と合併し朝霞町に、その後、昭和42年（1967年）に市制施行により朝霞市となりました。
- ・地域の北側及び東側は市街化調整区域で、古くからの農地及び集落地（市街化調整区域内で人が集まって生活している地域）となっており、田園風景が広がっています。
- ・地域の西側を東武東上線が走っており、南側に朝霞駅があります。駅周辺の中心市街地は、近年商業の衰退が見られるため、周辺の土地区画整理事業の整備とあわせ商店街の活性化が求められています。
- ・旧暫定逆線引き地区である岡1丁目地区（約10ha）、根岸台2丁目地区（約14.9ha）、根岸台7丁目東地区（約8.9ha）、根岸台7丁目西地区（約8.6ha）が市街化区域に編入されました。
- ・平成20年（2008年）に向山地区の土地区画整理事業が完了し、また、朝霞駅東口の駅前広場についても同年に完成しました。
- ・地域の面積は約375haで本市全体の約20%を占め、地域内人口についても約26,600人で本市全体の約20%を占めています。人口は駅周辺を中心に増加傾向にあります。

【朝霞市における東部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

地域の現況及びこれから 10 年のまちづくりの課題について、地域別懇談会で出された意見を中心に次のとおり整理します。

現 況	課 題
<p>■土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の約 70%弱が市街化区域となっており、地域の北側と東側に市街化調整区域があります。 ・土地区画整理事業については、朝霞駅周辺の広沢地区や地域の北側の向山地区は施行が完了しています。根岸台 5 丁目地区については現在施行中です。 ・駅周辺の中心市街地においては、商業の衰退傾向が見られます。 ・旧暫定逆線引き地区の 4 地区が市街化区域へ編入され、地区内には農地などが多く残っています。 ・平成 16 年（2004 年）以降、駅周辺や北側の黒目川沿いの地域などに保育園が複数設置されました。 ・近年、資材置き場や駐車場が増加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺については、市街地整備の促進や商業機能の充実による中心市街地の活性化が求められています。 ・市街地内農地の混在が見られ、保全すべき農地と住宅の整序や、住宅地の質の向上などが望まれます。 ・工場撤退に伴い発生した大規模跡地の利活用による地域経済の活性化や雇用の確保が求められています。 ・スーパーなど買物環境の充実が求められています。 ・市民の健康づくりに資する拠点的な医療・福祉・教育施設の集約的土地利用を図ることが求められています。
<p>■道路交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車と歩行者の道路機能が混在しています。 ・地域の西側を東武東上線が南北に縦断しており、南側に朝霞駅が設置されています。 ・朝霞駅を起点に、コミュニティバスなど、多くのバスが運行しています。 ・駅へのアクセス道路などの都市計画道路が決定され、整備が進められています。 ・国道 254 号バイパスの暫定 2 車線供用開始に伴い、都市計画道路新河岸川通線が全線廃止となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な歩行者空間の確保が求められます。 ・子どもの安全を考えた通学路の整備が求められています。 ・狭あい道路やカーブが連続する道、交差点の形状、歩行者が歩きにくい歩道など安全な道路整備が必要な箇所が多くあり、改善が求められています。 ・駅への交通手段として、自転車の通行量が多く、自転車・人・車の錯綜が見られ、改善が求められています。

■市街地整備

- ・地域内に水はけの悪い地域が存在します。
- ・朝霞駅東口は、都市再生機構が行った団地の建替えに伴い駅前広場を整備しました。

■緑・景観・環境共生

- ・地域の北側の黒目川沿いの地域においては、「わくわく田島緑地」の遊歩道の整備などにより、良好な田園風景が形成されています。
- ・黒目川・越戸川及び湧水が多く点在し、良好な水辺空間を有する自然環境に恵まれています。
- ・比較的規模の大きい都市公園や、文化財など歴史資源が存在しています。
- ・斜面林など、緑豊かな空間が点在しますが、その多くは個人の所有地（民地）です。
- ・平成18年（2006年）以降に特別緑地保全地区が5箇所（計2.0ha）指定されています。

■安全・安心

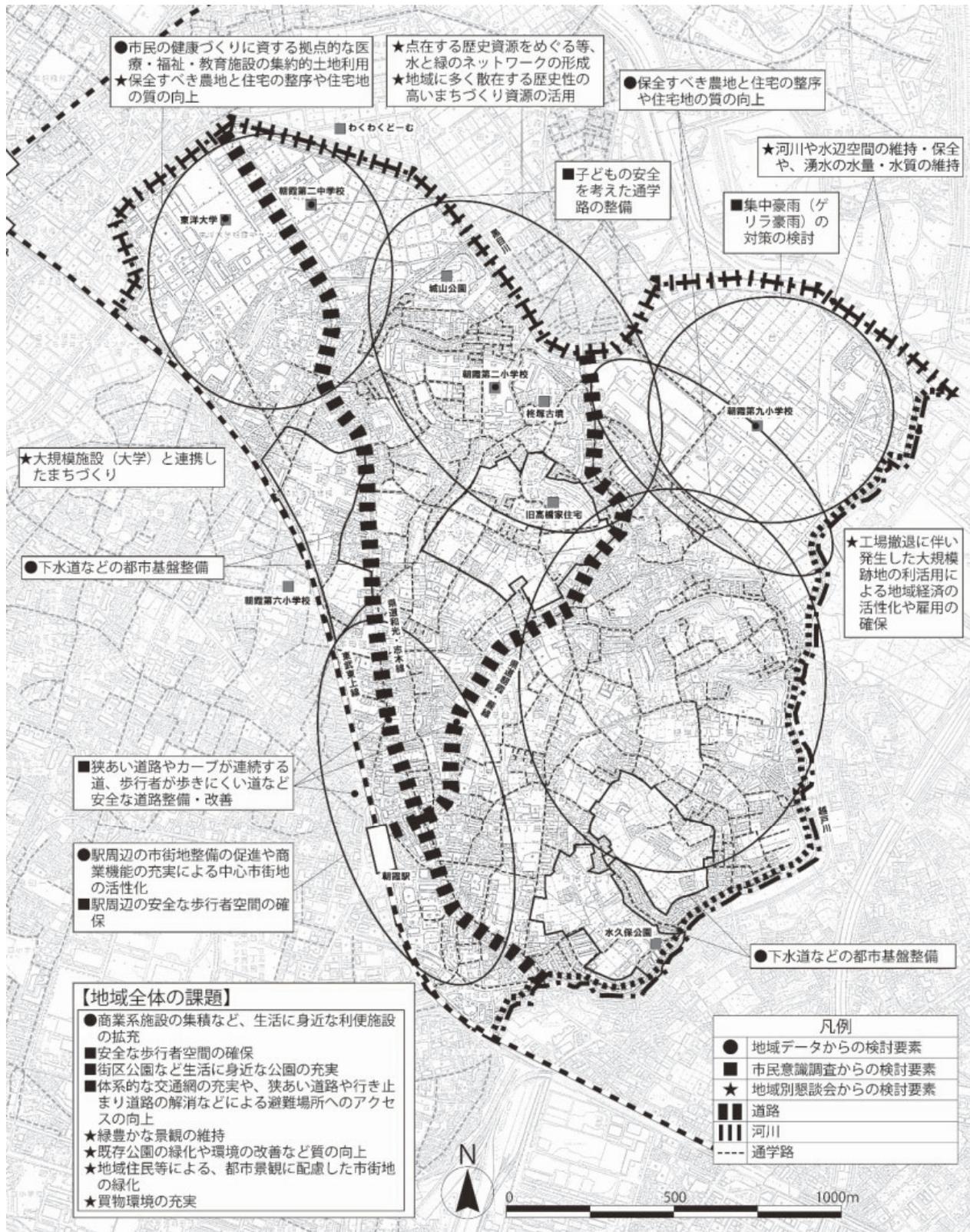
- ・狭い道路が多く、防災上危険な地域があります。

- ・下水道などの都市基盤整備の充実が求められます。
- ・駅前及び県道和光・志木線の沿道以外に目立った商業系施設の集積がなく、生活に身近な便利施設の拡充が望まれます。

- ・点在する公園や歴史資源を巡る散策路・遊歩道の整備など、水と緑の回遊性の向上が求められます。
- ・河川や水辺空間の保全、また湧水の水量・水質の維持が求められます。
- ・農地や斜面林などの保全による緑豊かな景観の維持が望まれます。
- ・残存する自然資源と調和し、都市景観に配慮した市街地の一層の緑化（花いっぱい運動など地域住民や民間企業などの参加を充実）が望まれます。
- ・旧高橋家住宅など地域に多く散在する歴史性の高い要素については、まちづくり資源として活用していくことが望まれます。
- ・街区公園など生活に身近な公園の充実や、既存公園の緑化や環境の改善など質の向上が望まれます。

- ・住宅地などにおける体系的な交通網の充実や、狭あい道路や行き止まり道路の解消などによる避難場所へのアクセスの向上が望まれます。
- ・近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）に関する対策の検討が求められています。

【東部地域の課題図】





【大規模工場跡地と斜面林】

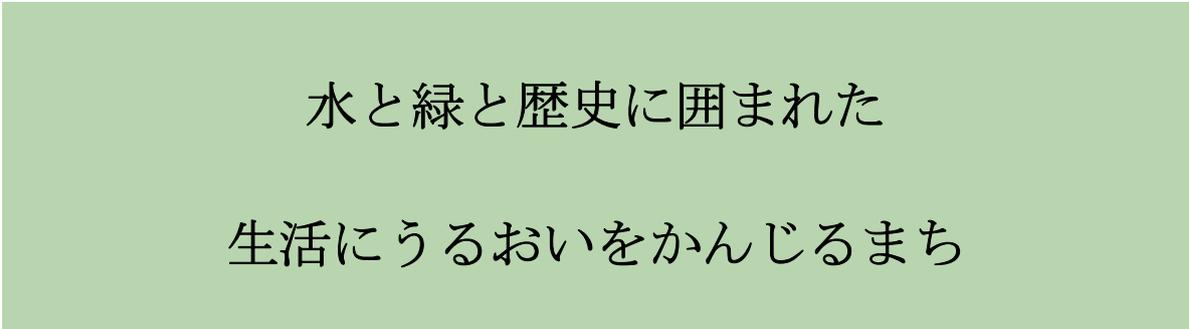


【朝霞駅東口駅前広場で開催される「朝霞アートマルシェ」】

(3) 地域づくりの目標（将来像）

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

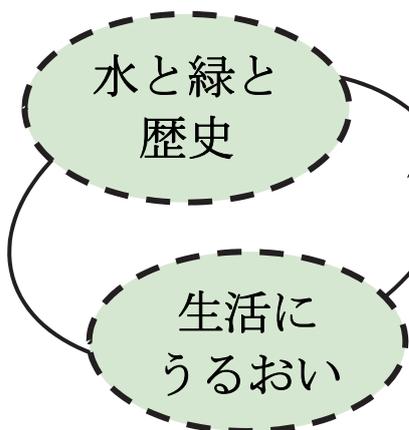
①将来像



②まちづくりの方向性

- ・農地の保全・活用、旧暫定逆線引き地区の利用方法などについて、居住者・地権者などと検討していくとともに、住環境と農業環境の調和を目指します。
- ・残存する自然資源・歴史資源を保全し、起伏に富んだ地形を活かした散策路づくりや、道路規模・配置間隔などに配慮した体系的な道路網の形成により、安心して楽しく歩ける歩行者空間づくりを目指します。
- ・朝霞駅周辺については、生活利便性の向上、憩いやくつろぎの場としての空間も充実した朝霞の顔となるまちを目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ
(地域別ワークショップより)



- 住、緑、水、史、道の共存を図り、人にやさしいまちづくりを進めたい
 - 静かな空間を維持し、明るく豊かな、生活の充実を図る
 - 坂や地形などを活かし、時間を忘れ歩いて楽しい休日を過ごせるしくみづくり
- ※自然・歴史資源をつなぐ、来街者・地元住民ともに楽しめる歩行者に安全な散策路づくり

【東部地域の地域づくり方針図】

コミュニティバスのルートの見直し等による利便性の向上
歩道の確保や街路樹などの緑化に努め、歩行者や自転車利用者が快適に移動できるネットワークの形成

河川周辺に残存する自然資源の保全や、歴史資源等を含めた一体的活用

地域経済を支え、雇用を創出する重点的な地区としての土地利用

広域的交流を促進し地域の活性化につながる土地利用の検討

自然との共存に配慮しながら、拠点的な教育・医療・福祉施設を集約的に土地利用

一定の区間内における速度抑制など交通規制の導入を検討

市街地整備の促進と商業機能の充実
ユニバーサルデザインに基づいた交通結節機能の充実

小学校周辺等のまとまった農地は、農業体験の推進など、地域の実情に応じ、適正な保全を検討

地域の生活軸・通学路としての安全性を確保

周辺環境との調和に配慮した計画的な宅地化や都市農地の保全により、良好な市街地形成を促進

凡例		
拠点	都市拠点・地域拠点	
	医療と福祉の拠点	
	水と緑の拠点	
地区	まちづくり重点地区	
	新市街化地区	
都市軸	鉄道	
	広域交通軸（国道）	
	整備済区間	
	未供用区間	
	地域交通軸	
	県道	
	主要生活道路	
	都市計画道路	
	整備済区間	
	未供用区間	
見直し検討区間		
水と緑の軸		
地域生活の主要軸		

公共施設等	教育・文化・コミュニティ	
	福祉	
	学校	
	公園・保護地区等	
	その他	
ゾーン	住居系ゾーン	
	低層住宅地	
	中高層住宅地	
	商業系ゾーン	
	自然と調和のとれたまちづくりゾーン	
自然と共存する公共施設等ゾーン		
集落地・農地等		
河川周辺		
河川		
地域区域界		

※その他：上記以外の市の施設及び文化財（無形文化財・古文書・絵図除く。）



(4) 地域づくりの基本方針

東部地域の地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本として「土地利用」、「道路交通」、「市街地整備」、「緑・景観・環境共生」、「安全・安心」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

①土地利用

- ・岡・根岸台地区については、残存する緑や農地の保全などにより、自然環境と調和する住環境の維持・向上を図ります。
- ・朝霞駅周辺の商業地については、市街地整備の促進と商業機能充実を図るとともに、駅周辺の利便性を活かした各種生活サービス機能の集約などを促進し商業などの活性化を図ります。(キーワード 2)
- ・根岸台3丁目の大規模な工場が閉鎖となる跡地及びその周辺については、今後も地域経済を支え、雇用を創出する重点的な地区としての土地利用の誘導を図ります。(キーワード 5)
- ・黒目川沿いの市街化調整区域内に立地を許容する公共施設や教育施設、市民の健康づくりに資する拠点的な医療・福祉施設については、残存する自然的要素との共存に配慮しながら集約的土地利用を図ります。(キーワード 4)

②道路交通

- ・地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者及び自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保していきます。(キーワード 7, 8)
- ・国道 254 号バイパスは、一部が供用開始され交通の利便性が向上したことから、その沿道については周辺の自然と調和のとれたまちづくりゾーンとして、広域的交流を促進し地域の活性化につながる土地利用を検討します。(キーワード 3)
- ・朝霞第二小学校の周辺などの住宅地においては、一定の区間内における速度抑制など交通規制の導入を検討します。(キーワード 7, 8)
- ・根岸台7・8丁目、台地区など駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の形成を進め、地域に立地する公共施設や避難場所などへのアクセスを高めます。(キーワード 21)
- ・朝霞駅周辺では、駅へのアクセス道路などの整備をはじめ、交通機関相互の円滑な乗り継ぎが安全・快適に行えるように、ユニバーサルデザインに基づいた交通結節機能の充実に努めます。(キーワード 9)
- ・黒目川沿いの遊歩道と、自然と共存する公共施設等ゾーンの各施設や、朝霞駅など地区内の施設を結ぶ主要な道路については、歩道の確保や街路樹などの緑化に努め、歩行者や自転車利用者が快適に移動できるネットワークの形成を図るとともに、コミュニティバスのルートの見直しなどを進め、利便性の向上を図ります。(キーワード 6, 9, 11)

③緑・景観・環境共生

- ・地域に残存する未利用地などの活用により生活に身近な広場や公園を充実していきます。(キーワード 10)
- ・黒目川・越戸川、地域内の水路などの水と水辺に残存する緑の保全、残存する湧水、武蔵野台地の崖線に残存する斜面林の保全を図り、潤いある景観づくりや親水性の向上を図ります。(キーワード 12)
- ・城山公園、柵塚古墳、旧高橋家住宅などの歴史的文化資源の保全を図るほか、ネットワーク化などによりまちづくり資源として活用します。
- ・地域の主要施設(鉄道駅、商店街、公共施設、公園など)を既存軸(河川や道路)で結び、街路樹などによる道路の緑化の推進とともに、地域生活の主要軸の形成にも資する水と緑の軸づくりを検討します。(キーワード 11)
- ・地域の関係者が連携し、協力するなど既存宅地の生垣化などによる住宅地の緑化を進め、まちなみ形成や潤いのある住環境の向上を促進します。(キーワード 11)
- ・資材置き場などによる周辺環境の悪化を減らし、「住み心地」の良いと感じられる良好な景観形成に配慮したまちづくりを進めます。
- ・岡1丁目地区・根岸台2丁目地区・根岸台7丁目東地区・根岸台7丁目西地区の地区計画区域内の都市農地については、周辺環境との調和に配慮した計画的な宅地化や農地の保全などのまちづくりを進めることで、地域特性を活かした良好な市街地形成を促進します。(キーワード 17)

④市街地整備

- ・根岸台1～4丁目、8丁目など木造住宅が密集する地域や、狭あい道路や行き止まり道路が多い地区については、道路などの基盤の整備を進めるとともに、建物の不燃化、耐震化など防災性の向上を促進し、良好な住宅市街地の形成を誘導します。(キーワード 15, 21)

⑤安全・安心

- ・既存公園については、緑化のあり方や防犯対策の検討などにより質的向上に努めます。(キーワード 10, 23)
- ・地域防災計画に基づき、災害時の避難場所の確保とともに、避難場所へのアクセスの向上を図ります。(キーワード 21, 22)
- ・河川に囲まれる地域特性をふまえ、低地部の水害に対する安全性の維持・確保に資するよう、雨水・排水対策なども含め総合的な治水対策に努めます。(キーワード 20)

総合計画と連携してまちづくりに取り組む主な内容

- ・農業者との連携による農業体験の実施など多面的機能を活かした農地の保全・活用を促進する(キーワード 10)
- ・朝霞駅周辺を中心市街地活性化などに対する、地域住民の活動を支援する
- ・市民と行政の協働による、よりよいまちづくりへの取組を推進する
- ・自然資源や歴史資源などを活かし、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりを検討する

【地域別懇談会 東部地域活動風景】

朝霞市都市計画マスタープランの見直しに向けて、平成27年（2015年）8月までに各地域などで計5回、地域づくりの方針をまとめる地域別懇談会「10年後のあなたの地域について考えてみませんか」を、各地域の方々の協力のもと開催しました。

第1回 10年間を振り返り、「地域の魅力と課題」をワークショップ形式で話し合い



<話し合いの結果>

地域の魅力：自然が豊か（斜面林・湧き水）／駅前広場（イベント）／朝霞水門（水害減）／公園整備（城山公園・柵塚公園）

地域の課題：農地が減少（旧暫逆地区）／通学路の整備／見通し悪い道路／資材置き場が多い

第2回 「地域の魅力と課題」を実際に見に行く「タウンウォッチング」を実施



<タウンウォッチングで気づいたこと>

- 朝霞の原風景ともいえる農地と住宅と屋敷林が素晴らしい
- 狭あい道路やカーブが連続する道が多く歩行者が歩きにくい
- 旧高橋家住宅、氷川神社、東円寺などをウォーキングコースとして整備

第3回 第1回・第2回の結果をふまえた地域のまちづくりの検討



<検討結果>

- 土地利用：民間の工場跡地などの大規模な開発に合わせた周辺環境の整備
- 道路交通：小学校周辺の通学路の安全対策
- 緑・景観・環境共生：優良な農地の保全
- 安全・安心：城山公園など安全に配慮した公園の整備／子どもを犯罪や事故から未然に防ぐ街路樹の整備 など

第4回 地域のまちづくりに関する意見交換会（考えられる取組について）



<話し合いの結果>

「小学校周辺の通学路の安全対策」について

●通学路の安全対策

・下校時間に合わせた見回り／地域の状況を報告する制度の構築／街路灯の見直し／道路・歩道の整備 など

「城山公園など安全に配慮した公園の整備」について

●安全な公園づくり

・管理（手入れ）を誰がやるのか（地元か行政か）検討／低木など子どもの目線、大人の目線が抜けるような樹木の配置 など

第5回 合同成果発表会



●各地域からの成果発表

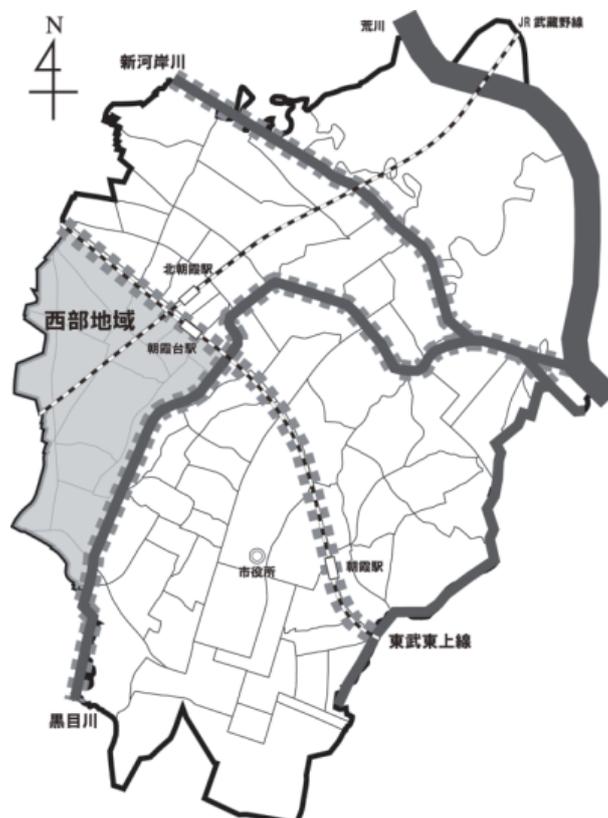
●意見交換

5. 西部地域（三原・西弁財・東弁財・泉水・膝折町の一部等）

（1）地域の概要

- ・当地域は、本市の西側に位置し、地域の東側を黒目川が流れています。地域の西側は新座市に隣接しています。
- ・当地域は、明治22年（1889年）の合併により膝折村と内間木村となりました。膝折村は昭和7年（1932年）の町制施行時に朝霞町と改名し、昭和30年（1955年）に内間木村と合併し、その後、昭和42年（1967年）に市制施行により朝霞市となりました。
- ・地域界の北側を東武東上線が、中心を東西にJR武蔵野線が走り、北東の位置に朝霞台駅・北朝霞駅があります。
- ・黒目川沿いの周辺は市街化調整区域ですが、他の地域は市街化区域となっています。
- ・駅周辺は、土地区画整理事業が完了しており、また、地区計画により商業集積が図られています。
- ・地域の面積は約224haで市全体の約12%ですが、地域内人口については約28,000人で市全体の約21%を占めています。地域内人口密度は最も高く、地域内の人口は、平成17年（2005年）から約4%増加しています。

【朝霞市における西部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

地域の現況及びこれから 10 年のまちづくりの課題について、地域別懇談会で出された意見を中心に次のとおり整理します。

現 況	課 題
<p>■土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の東側の黒目川沿いは市街化調整区域となっています。 ・地域の北側の駅周辺は土地区画整理事業が完了しており、商業機能の集積が見られます。 ・地域の南側は工業系用途地域が指定されており、民間企業の大規模施設が立地しています。 ・工業系、商業系及び住居系の建物用途の混在が見られます。 ・黒目川周辺の市街化調整区域では、貸し倉庫や産廃・廃車の放置などが見られます。 ・志木駅に近い北西の地域や駅周辺及び黒目川沿いの斜面地では、分譲マンションが多く立地しています。 ・鉄道高架下は駐輪・駐車場として利用されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR武蔵野線と東武東上線の乗換駅となっている北朝霞駅・朝霞台駅があり、多くの駅利用者の流動を活かした商業的土地利用の充実を図るとともに、生活に身近な商業環境の充実や、にぎわい景観づくりなどが求められます。 ・黒目川沿いの建設残土の放置や、貸し倉庫などの利用が進んでおり、良好な河川沿いの自然にふさわしい適切な土地利用が求められています。 ・駅前広場や鉄道高架下の有効利用が求められています。
<p>■道路交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路が少ないため、渋滞や事故の起こる場所が多くあります。 ・JR武蔵野線が地域の東西に、東武東上線が地域界を南北に横断しており、北朝霞駅・朝霞台駅が設置されています。 ・鉄道駅を起点に多くのバスが運行していますが、一部、公共交通手段が不足している地域があります。 ・都市計画道路が決定されていますが、整備が進んでいません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な歩行者空間の確保が求められます。 ・通過交通の車の抜け道などとして利用されている生活道路について、面的速度規制や一方通行化などの導入による交通安全対策が求められています。 ・駅周辺の駐輪場の有効活用や公共交通機関の充実など、利用しやすい駅前の空間づくりが必要です。 ・河川沿いの環境を活かし、既存公園などのネットワークにより地域内の回遊性を高めることが求められています。 ・生活道路や通学路の整備や、黒目川と駅をつなぐ道の整備など、歩きやすく、安全で安心な歩道づくりが求められています。

■市街地整備

- ・都市公園が少なく、オープンスペース（空地）なども少ない状況です。
- ・狭い道路が多く、防災上危険な地域があります。

■緑・景観・環境共生

- ・黒目川、野火止用水跡、また湧水が僅かながら残存しています。
- ・大規模な民間企業の敷地などにはまとまった緑が残存しています。
- ・屋敷林など緑豊かな空間が点在しますが、その多くは個人の所有地（民地）です。
- ・農地や果樹園などが点在していますが、生産緑地以外の農地の減少が進んでいます。
- ・三原公園は子どもの遊び場、地域の憩いの場として利用されています。
- ・伸銅所などの歴史的価値のある施設などがあります。

■安全・安心

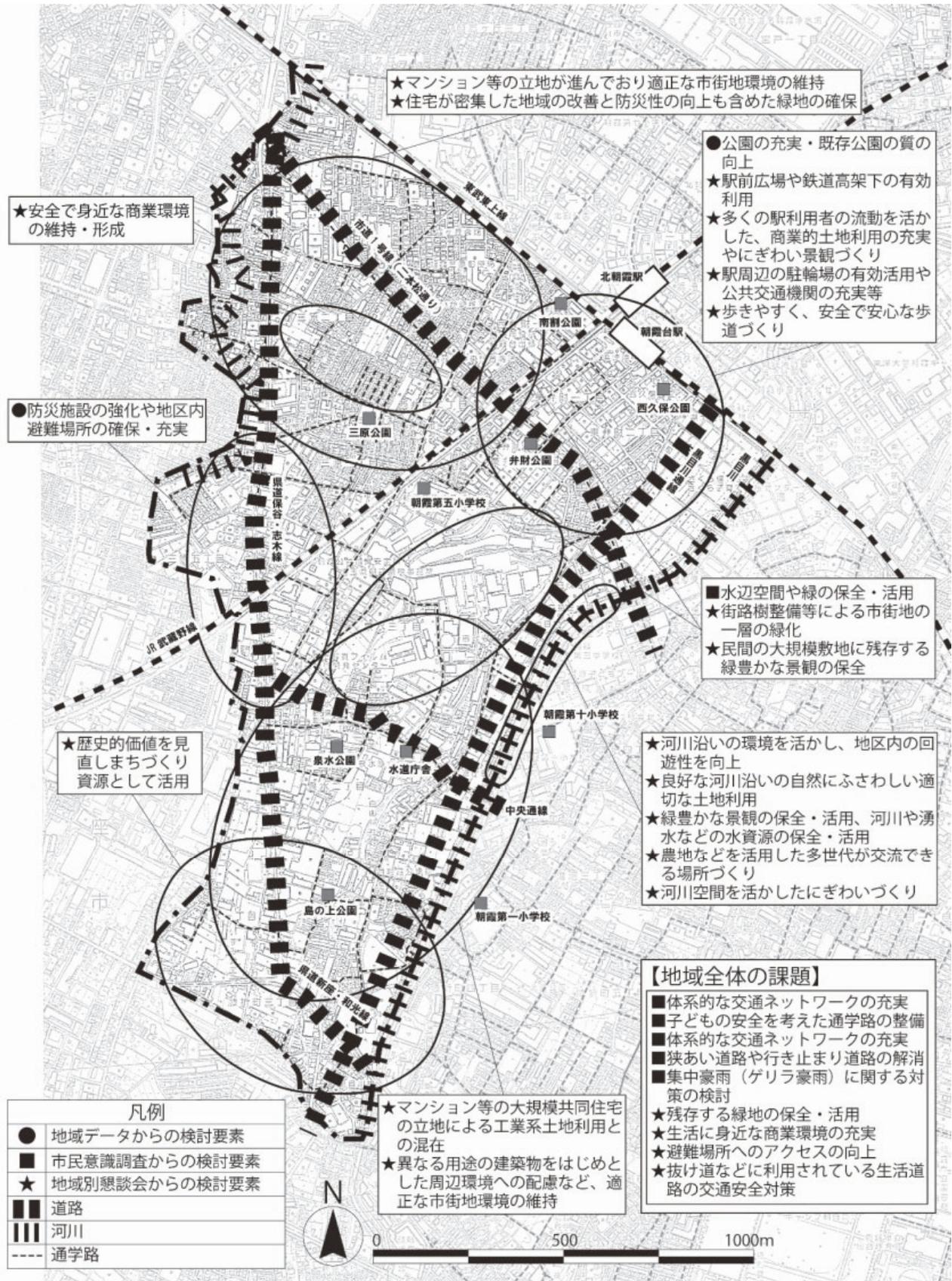
- ・三原地区など住宅が密集した地域があり、地震・火災などに対する防災対策が懸念されています。また、高齢者の人口密度も非常に高い地域となっています。

- ・地域には住宅が密集した地域が見られ、その改善とともに防災性の向上も含めた緑地の確保が求められます。
- ・マンションなどの大規模共同住宅の立地による、工業系土地利用との混在が見られ、異なる用途の建築物をはじめとした周辺環境への配慮など、適正な市街地環境の維持が望まれます。

- ・農地や斜面林など緑豊かな景観の保全・活用、また河川や湧水などの水資源の保全・活用が求められます。
- ・残存する自然資源と調和し、主要道路の街路樹整備などにより都市景観にも配慮した市街地の一層の緑化が望まれます。
- ・伸銅工業発祥の地であることや、川越街道膝折宿などの歴史的価値を見直し、まちづくり資源としての保全・活用が望まれます。
- ・黒目川など河川空間を活かしたにぎわいづくりや、農地などを活用した多世代が交流できる場が求められています。
- ・街区公園など生活に身近な公園が不足しており、その充実とともに、既存公園の緑化や環境の改善など質的な向上も望まれています。

- ・住宅地における体系的な交通網の充実や、狭あい道路や行き止まり道路の解消などによる避難場所へのアクセスの向上が望まれます。
- ・近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）に関する対策の検討が求められています。
- ・地域内の一時的な避難場所となる空地などの充実や施設の耐震化が求められます。

【西部地域の課題図】





【黒目川の桜並木と浜崎黒目花広場】



【水道庁舎から泉水方面の眺望】

(3) 地域づくりの目標 (将来像)

地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

①将来像

自然 (黒目川・緑) と歴史性 (伸銅工業・旧街道) を活かす

暮らしにやさしく 住み続けられるまち

②まちづくりの方向性

- ・ マンション立地の抑制や適正な誘導など、良好な住環境の維持・整備をすすめるとともに、防災性や快適性を高め、住み良いまちづくりを目指します。
- ・ 市街地の形成過程や土地利用による多様な特性に配慮し、特に黒目川沿いなどの無秩序な市街化を抑制し、自然環境を保持した土地利用の適正な誘導や、工業系の土地利用については、伸銅工業発祥の地としての歴史的価値の見直し、住宅などの混在への対応などにより土地利用用途の特性を活かすよう、それぞれの区分の中で適正な配慮・誘導を目指します。
- ・ 住宅が密集した市街地の改善や大規模マンション建設時の周辺環境への配慮・調整、身近な公共施設などの充実により安全・安心で快適な生活環境づくりを目指します。
- ・ 地域内の体系的な道路ネットワークの形成や、狭あい道路 (幅員 4 m 未満) の解消などにより、安全でやさしい道路づくりを目指します。

将来像設定にあたってのキーワード・サブテーマ
(地域別ワークショップより)

特徴を持つエリア
ごとのまちづくり

自然資源

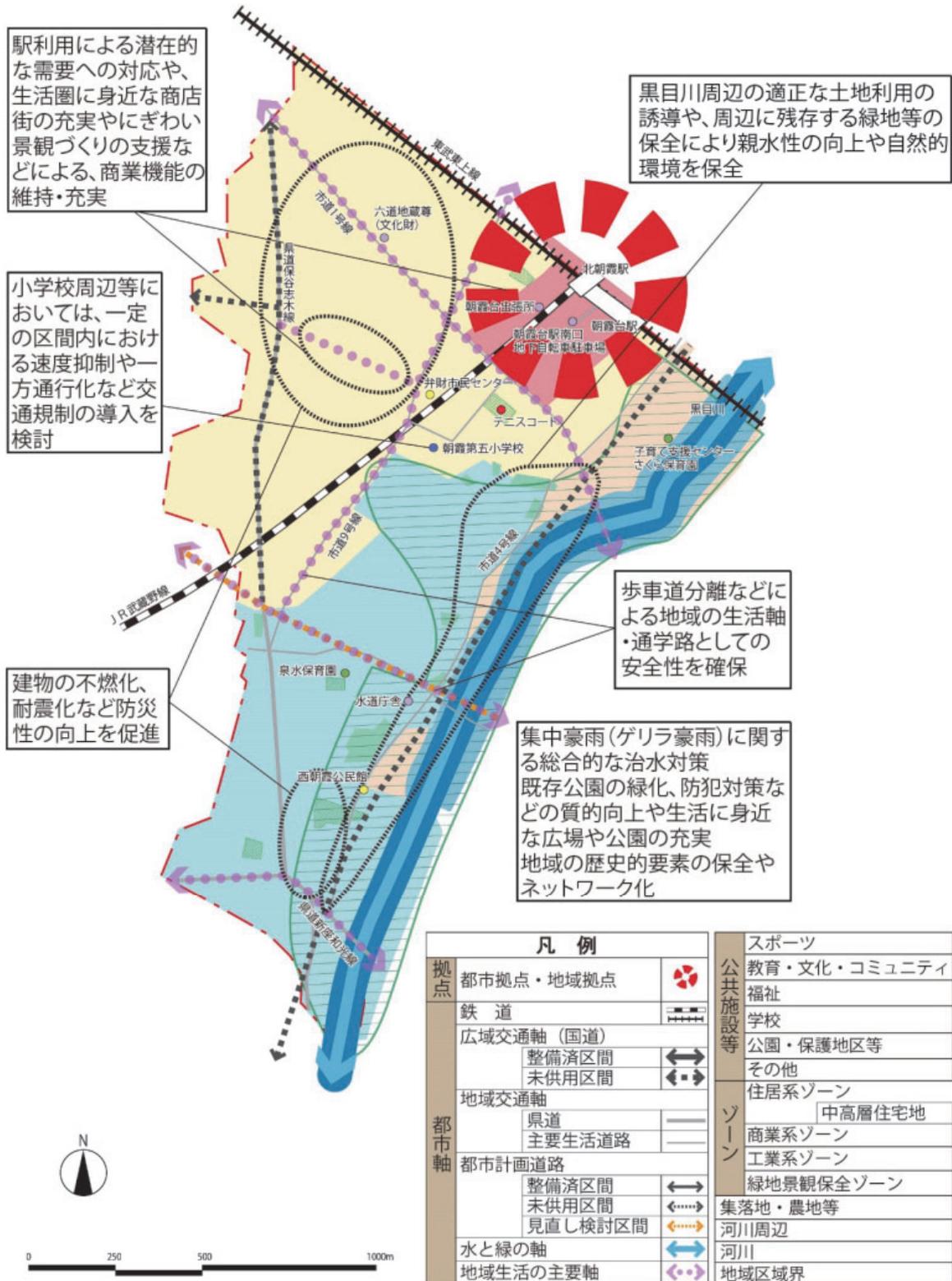
住環境

利便性

歴史性

- 特徴をもった地区ごとの目標
「緑と水を守り、ふれる」(泉水)
「のどか・憩いの空間に」(黒目川流域)
「住環境や歴史的価値を守る」(膝折)
「住みよい環境へ」(三原)
「広く便利に」(弁財(朝霞台駅周辺))
- 住民の声を聞くまちづくり、コミュニティの再生が大事
- ひ孫の代までにはよいまちにしたい

【西部地域の地域づくり方針図】



(4) 地域づくりの基本方針

西部地域の地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本として「土地利用」、「道路交通」、「市街地整備」、「緑・景観・環境共生」、「安全・安心」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

①土地利用

- ・北朝霞駅・朝霞台駅周辺の多くの居住者や駅利用者を有する潜在需要の高さに対応するよう、今後も地区計画による誘導を維持し、駅周辺における商業・業務系利用を促進するとともに、周辺の住環境との調和に対する配慮などについても検討します。(キーワード 1, 2)
- ・弁財地区や三原地区に形成されている地域の活力を支える既存商店街の安全・快適に買物ができる生活に身近な商業環境の充実やにぎわい景観づくりを支援します。(キーワード 2)
- ・泉水、膝折町地区など住宅と工業施設が混在する地域での住・工相互の環境に配慮した誘導を検討します。(キーワード 1)

②道路交通

- ・北朝霞駅・朝霞台駅周辺の駐輪場施設の適正な運用や交通施設の改善などにより、駅利用者・歩行者に配慮した安全な歩行者空間を確保していきます。(キーワード 2)
- ・県道新座・和光線や地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者及び自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸・通学路としての安全性を確保していきます。(キーワード 6, 7, 8)
- ・泉水、膝折町地区など駅から遠隔となる住宅地における体系的な道路網の形成を進め、地域に立地する公共施設や避難場所へのアクセスを高めます。(キーワード 21)
- ・小学校周辺や住宅地においては、一定の区間内における速度抑制や一方通行化など交通規制の導入を検討します。(キーワード 7, 8)

③緑・景観・環境共生

- ・地域に残存する未利用地を活用することにより生活に身近な広場や公園の充実を図るとともに、既存公園については緑化のあり方や防犯対策の検討などにより質的向上に努めます。(キーワード 10, 23)
- ・地域の関係者が連携し、協力するなど既存宅地の庭木や生け垣などの緑化を進め、まちなみの形成や潤いのある住環境の向上を促進します。(キーワード 11)
- ・黒目川周辺の自然資源の保全とともに、沿川の公園整備や親水性の向上を推進します。(キーワード 12)
- ・工業地内や公共施設敷地に残存する緑地や、かつての湧水の見られた崖地の保全などにより、地域を特徴づける潤いのある景観づくりを進めます。(キーワード 11, 12)

- ・川越街道膝折宿としての街道筋や伸銅工業発祥の地として、地域の歴史的要素の保全やネットワーク化などにより、まちづくり資源として活用します。
- ・地域の主要施設（鉄道駅、商店街、公共施設、公園など）を既存軸（河川や道路）で結び、街路樹などによる道路の緑化の推進とともに、地域生活の主要軸の形成にも資する水と緑の軸づくりを検討します。（キーワード 11）

④市街地整備

- ・三原地区などの木造住宅が密集し、狭あい道路や行き止まり道路が多い地区については、建物の不燃化、耐震化など防災性の向上を促進し、良好な住宅市街地の形成を図ります。（キーワード 15, 21）
- ・地域内の農地については、周辺環境との調和や保全すべき農地に配慮した計画的な宅地化などを検討していきます。（キーワード 10）

⑤安全・安心

- ・地域防災計画に基づき、災害時の避難場所の確保とともに、避難場所へのアクセスの向上を図ります。また、住宅が密集する三原周辺の地域については、道路や公園などのオープンスペースの確保を図ります。（キーワード 15, 21, 22）
- ・高齢化や核家族化の進展とともに、顕在化している管理不全な空き家等の問題は、「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき改善に取り組み、良好な生活環境の確保に努めます。（キーワード 24）
- ・近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）に関する総合的な治水対策に努めます。（キーワード 20）

総合計画と連携してまちづくりに取り組む主な内容

- ・自然資源や歴史資源などを活かし、より快適な環境を形成していくため地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりを検討すること
- ・農業者との連携による農業体験の実施や遊休農地の市民農園としての活用を図ること（キーワード 10）

【地域別懇談会 西部地域活動風景】

朝霞市都市計画マスタープランの見直しに向けて、平成27年（2015年）8月までに各地域などで計5回、地域づくりの方針をまとめる地域別懇談会「10年後のあなたの地域について考えてみませんか」を、各地域の方々の協力のもと開催しました。

第1回 10年間を振り返り、「地域の魅力と課題」をワークショップ形式で話し合い



＜話し合いの結果＞

地域の魅力：三原公園（市民参加の公園）／黒目川が水質改善／朝霞台の駅が便利

地域の課題：信号による交通渋滞／自然が減少／歩道の整備／狭あい道路改善／交通量

第2回 「地域の魅力と課題」を実際に見に行く「タウンウォッチング」を実施



＜タウンウォッチングで気づいたこと＞

- 都市農地は貴重な存在である、緑地としてできるだけ残したい
- 朝霞台駅のメインストリートににぎわいがほしい
- 黒目川、新河岸川をサイクリング道路でつないでほしい
- ボール遊びができる三原公園は貴重な存在 など

第3回 第1回・第2回の結果をふまえた地域のまちづくりの検討



＜検討結果＞

- 土地利用：訪れ、利用したくなる駅周辺の商業環境の整備
- 道路交通：狭あい道路や歩道、通学路の整備
- 緑・景観・環境共生：建築物の更新、新築に際しては、建物の高さや色彩、街並などの適正な規制・誘導 など

第4回 地域のまちづくりに関する意見交換会（考えられる取組について）



＜話し合いの結果＞

「訪れ、利用したくなる駅周辺の商業環境の整備」について

●駅周辺の商業環境の整備

- ・歩道を利用したオープンカフェ／一方通行を歩行者天国／駅前での新鮮な地元野菜の販売／駅前に朝霞の名所・散策路マップの設置 など

「狭あい道路や歩道、通学路の整備」について

●狭あい道路や歩道、通学路の整備

- ・学校周辺や主要通学路におけるゾーン30の実施／歩道の側溝の整備／自転車通行帯のカラー舗装 など

第5回 合同成果発表会



●各地域からの成果発表

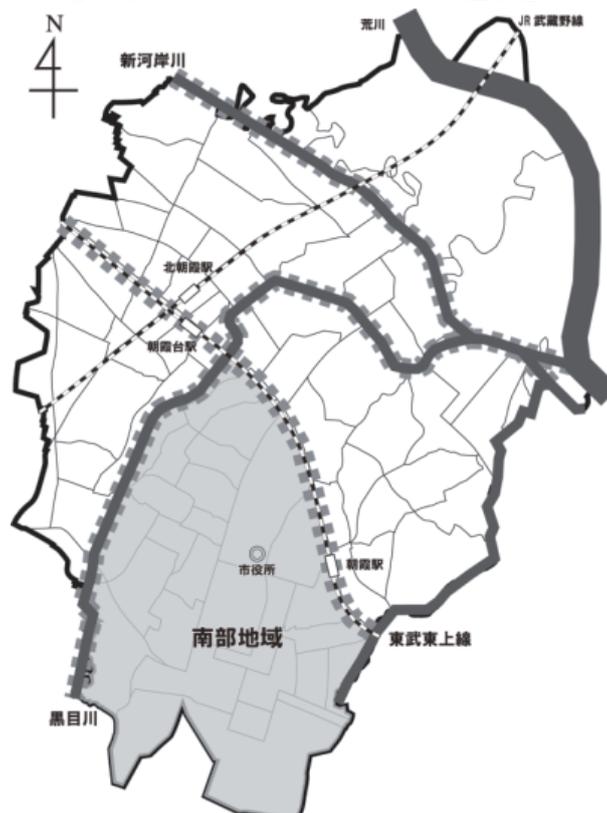
●意見交換

6. 南部地域（本町・溝沼・幸町・栄町・青葉台・膝折町の一部・基地跡地等）

（1）地域の概要

- ・当地域は、本市の南側に位置し、地域の西側から北部を黒目川が流れています。地域の西側は新座市、南東側は和光市、南側は東京都練馬区に接しています。
- ・当地域は、明治22年（1889年）膝折村・溝沼村・岡村がその他3村と合併し、膝折村となりました。昭和7年（1932年）の町制施行時に朝霞町に改名し、その後、昭和30年（1955年）には内間木村と合併し、その後、昭和42年（1967年）に市制施行により朝霞市となりました。
- ・黒目川沿いの低地、及び当地域の中央に位置する基地跡地、南端の陸上自衛隊朝霞駐屯地は市街化調整区域となっています。
- ・東武東上線が東側を走っており、南東側に朝霞駅があります。平成17年（2005年）に広沢地区の土地区画整理が完了し、平成19年（2007年）には朝霞駅南口広場が完成するなど、着々とまちづくりが進んでいます。一方で、駅周辺の中心市街地は、近年商業の衰退が見られるため、商店街の活性化が求められています。
- ・基地跡地では、「憩いと交流の拠点」となる地区の形成を目標とする地区計画の決定や、基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」がオープンするなど、自然とふれあう場も増えています。
- ・平成22年（2010年）2月に朝霞第四小学校が移転しました。
- ・地域の面積は約543haで、本市全体の約30%を占め、地域内人口については約49,400人で市全体の約37%を占めています。地域内の人口は、朝霞駅周辺の地域を中心に増加傾向にあります。

【朝霞市における南部地域の位置】



(2) 地域の現況と主要課題

地域の現況及びこれから 10 年のまちづくりの課題について、地域別懇談会で出された意見を中心に次のとおり整理します。

現 況	課 題
<p>■土地利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺の中心市街地においては、経営者の高齢化や後継者不足に伴い、空き店舗が増加する傾向が見られます。 ・ 地域の北側の黒目川沿いに市街化調整区域があります。 ・ 工業系、商業系及び住居系の建物用途の混在が見られます。 ・ 黒目川沿いなどに休耕地などが点在します。 ・ 平成 21 年（2009 年）に高度地区が指定されました。 ・ 平成 16 年（2004 年）以降、駅周辺や北側の黒目川沿いの地域などに保育園が複数施設されました。 ・ 旧川越街道沿道の近隣商業地域などでは、空き店舗の増加が見られます。 ・ 平成 22 年（2010 年）2 月に朝霞第四小学校が移転しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝霞駅を中心とする古くからの商店街が散在する市街地の活性化が求められます。 ・ 基地跡地の自然資源・防災空地としての活用など多様な土地利用の検討が望まれます。 ・ 黒目川沿いの良好な自然にふさわしい適切な土地利用が求められています。 ・ 旧川越街道や国道 254 号（川越街道）の沿道について、よりにぎわいのある土地利用の誘導が必要です。 ・ 朝霞第四小学校跡地については、にぎわいの創出や地域の活性化に寄与する土地利用が求められています。
<p>■道路交通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路幅員が狭く、歩道が設置されている道路が少ない状況です。 ・ 地域の南側を国道 254 号（川越街道）が横断しており、他地域から東京都心などへの通過車両が多く見られます。 ・ 朝霞駅を起点に多くのバスが運行していますが、一部、公共交通手段が不足している地域があります。 ・ 地形の高低差による急なカーブの坂などが見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域内の体系的な交通網の充実や、安全な歩行者空間の確保が求められます。 ・ 朝霞駅と市内の主要施設を効果的に結ぶよう、バス路線網の見直しなど公共交通手段の充実が必要です。 ・ 子どもの安全を考えた通学路の整備が求められています。 ・ 抜け道などとして利用されている生活道路について、面的速度規制や一方通行化などの導入による交通安全対策が求められています。 ・ 観音通線における自転車道の延伸が求められています。

■緑・景観・環境共生

- ・黒目川は、子どもが遊べ、水にふれあえる場所であり地域の貴重な資源となっています。
- ・暗渠となっている水路が存在します。
- ・広沢の池や膝折の湧水、基地跡地や寺社など自然資源、歴史資源も多く存在します。
- ・駅周辺は緑が少ない状況です。
- ・川越街道膝折宿など、昔ながらのまちなみが残る地域も存在します。
- ・溝沼、膝折の地域に高齢者施設が10年間で増加しています。
- ・地域の中央には基地跡地が存在し、平成24年(2012年)に基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」がオープンしました。

■市街地整備

- ・市役所をはじめ、多くの公共施設が分布しています。
- ・朝霞駅方面への自転車利用者が多く、駅周辺などに放置自転車が多く見られます。
- ・都市公園は、比較的多く分布しています。
- ・朝霞駅南口駅前広場が平成19年(2007年)に完成しました。
- ・栄町の準工業地域に分譲マンションが増加しています。
- ・朝霞駅周辺における広沢土地区画整理事業が平成17年(2005年)に完了しました。

■安全・安心

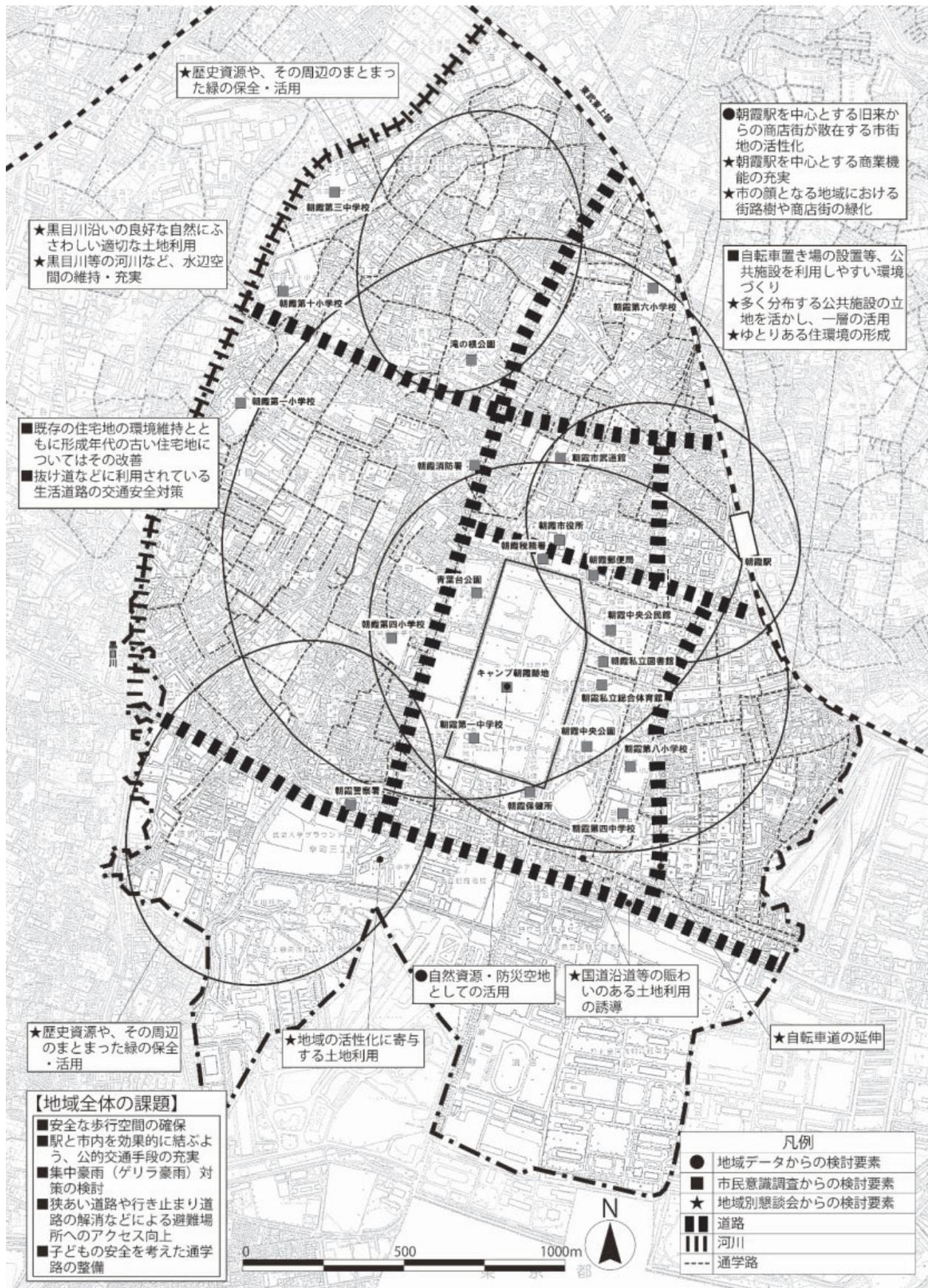
- ・幸町や膝折町などに住宅が密集した地域があり、地震・火災などに対する防災対策が懸念されています。

- ・黒目川などの河川や、暗渠となっている水路の改善と水辺空間の充実が望まれます。
- ・朝霞駅周辺などについては、市の顔となる地域における街路樹や商店街の緑化など、みどりの充実が求められています。
- ・寺社やまちなみなど、歴史資源や、その周辺のまとまった緑の保全・活用が求められます。

- ・多く分布する公共施設の立地を活かし、一層の活用が求められます。
- ・多くの利用者がある駅周辺や公共施設の駐輪場の充実・活用など、公共施設が利用しやすい環境づくりが求められています。
- ・既存の住宅地の環境維持とともに、形成年代の古い住宅地については、その改善が望まれます。

- ・近年多発する集中豪雨(ゲリラ豪雨)に関する対策の検討が求められています。
- ・住宅地における体系的な交通網の充実や、狭あい道路や行き止まり道路の解消などによる避難場所へのアクセスの向上が望まれます。

【南部地域の課題図】





【公園通りで開催される「彩夏祭」】

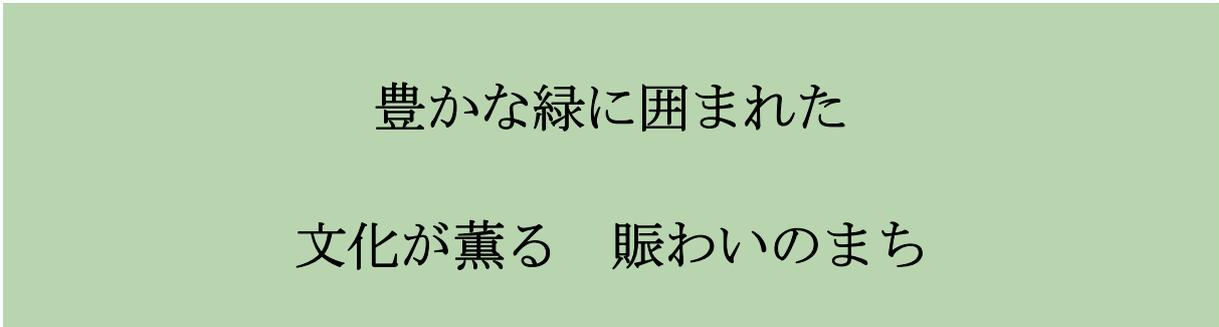


【国道 254 号（川越街道）と朝霞第四小学校跡地（右側）】

(3) 地域づくりの目標（将来像）

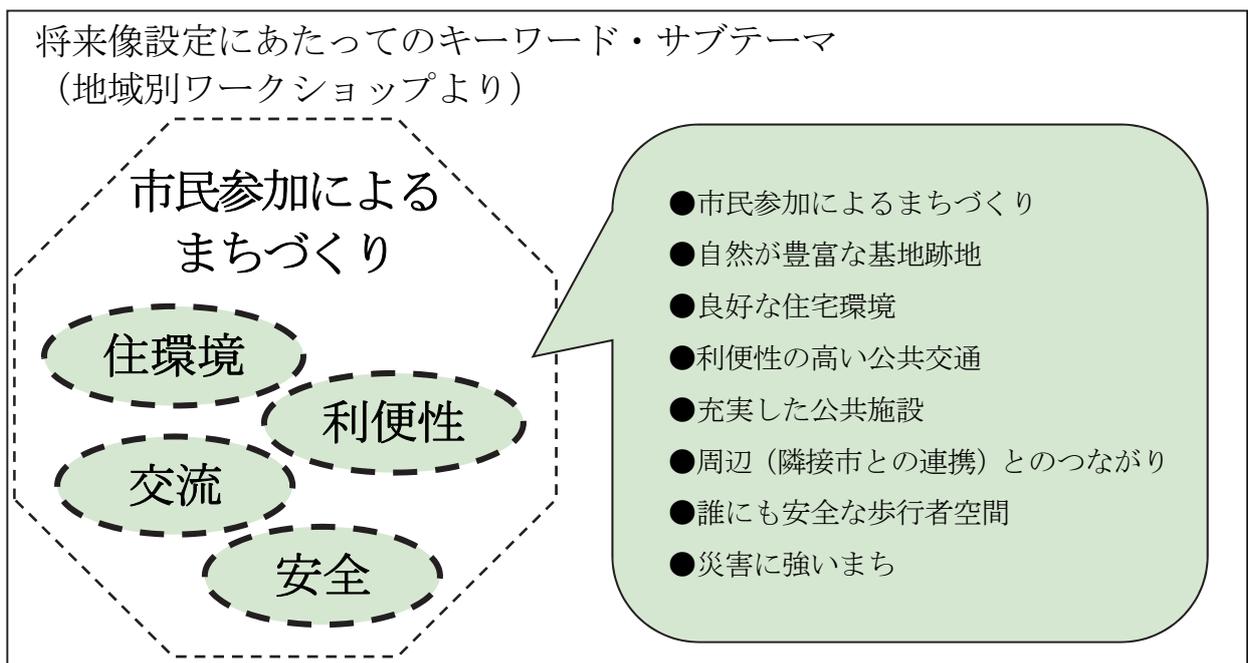
地域別ワークショップにおいて検討・抽出されたキーワードをもとに、地域の将来像を設定します。

①将来像

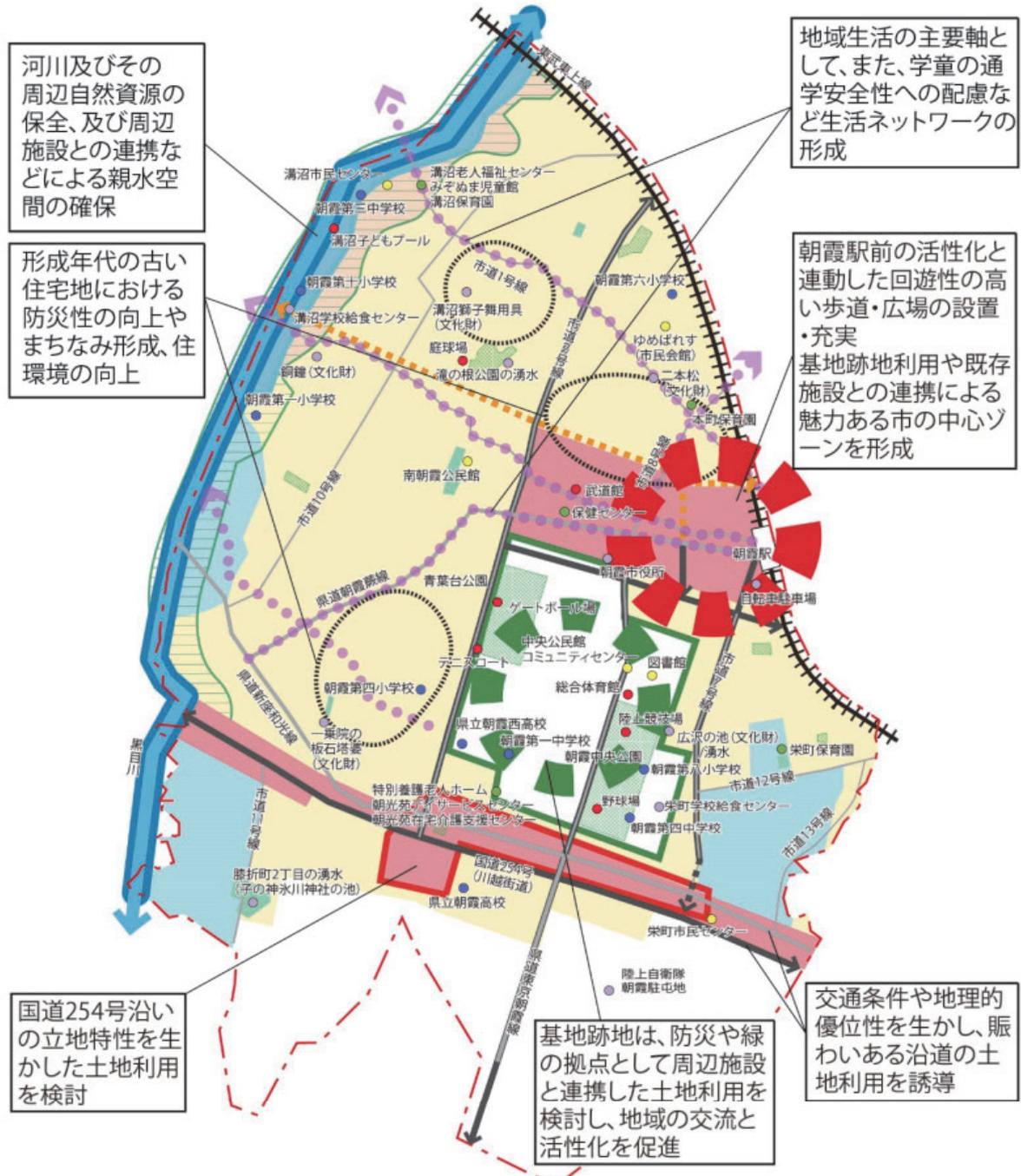


②まちづくりの方向性

- ・朝霞駅や多く分布する公共施設の立地、さらに基地跡地の公共性の高い未利用地を活かし、駅前広場などとあわせ、朝霞市の顔・交流拠点としてのまちづくりを目指します。
- ・形成年代の古い既成市街地の改善や、基地跡地などの活用による緑・オープンスペース（空地）の確保、道路規模、配置間隔などに配慮した体系的な道路網の形成により、安心して楽しく歩ける歩行者空間づくりを図るなど、ゆとりある住環境づくりを目指します。
- ・市街地に散在する農地の保全・活用の検討、黒目川周辺などの自然資源の保全や、寺社、川越街道膝折宿などの歴史・文化資源の活用により特徴ある景観づくりを目指します。



【南部地域の地域づくり方針図】



凡例			
拠点	都市拠点・地域拠点		
	水と緑の拠点		
地区	新たな拠点地区		
	まちづくり重点地区		
都市軸	鉄道		
	広域交通軸 (国道)		
	整備済区間		
	未供用区間		
	地域交通軸		
	県道		
	主要生活道路		
	都市計画道路		
	整備済区間		
	未供用区間		
見直し検討区間			
水と緑の軸			
地域生活の主要軸			
公共施設等	スポーツ		
	教育・文化・コミュニティ		
	福祉		
	学校		
	公園・保護地区等		
	その他		
	ゾーン	住居系ゾーン	
		中高層住宅地	
		商業系ゾーン	
		工業系ゾーン	
緑地景観保全ゾーン			
集落地・農地等			
河川周辺			
河川			
地域区域界			

※その他: 上記以外の市の施設及び文化財 (無形文化財・古文書・絵図除く。)



(4) 地域づくりの基本方針

南部地域の地域づくりの目標を具体的に進めていくための方針を全体構想分野別方針に示す事項を基本として「土地利用」、「道路交通」、「市街地整備」、「緑・景観・環境共生」、「安全・安心」の分野に区分して整理し、その総括について「地域づくり方針図」に示します。

①土地利用

- ・朝霞駅周辺については、商業・業務系利用の促進を図り、にぎわいづくりや安全で楽しい買物空間づくりを進めます。(キーワード 2)
- ・膝折町地区に形成されている地域の活力を支える既存商店街における生活に身近な商業環境の充実や、栄町地区における幹線道路沿道の商業地の充実を支援します。(キーワード 14)
- ・川越街道(国道254号)や旧川越街道の交通条件と地理的優位性を活かし、沿道のにぎわい創出のため、商業業務系系の土地利用の誘導を図ります。(キーワード 14)
- ・地域内に立地する学校移転に伴い生じた朝霞第四小学校の大規模な跡地については、国道254号(川越街道)沿いの立地特性を活かした土地利用の検討を進めます。(キーワード 5)

②道路交通

- ・学校周辺などの住宅地においては、一定の区間内における速度抑制など交通規制の導入を検討します。(キーワード 7, 8)
- ・県道朝霞・蕨線や、地域に整備されている主な市道については、自動車と歩行者及び自転車利用者の分離のための交通規制の検討などにより、地域の生活軸、通学路としての安全性を確保します。(キーワード 6, 7, 8)
- ・点在する公共施設や朝霞駅等拠点となる場所へのアクセスの向上や、市内循環バスルートの見直し、民間バス事業者への要請などにより公共交通のさらなる利便性向上に努めます。(キーワード 9)

③緑・景観・環境共生

- ・基地跡地や黒目川、広沢の池などのまとまった自然資源や寺社、川越街道膝折宿などの歴史資源をめぐる散策路や自転車ネットワークなど、まちづくり資源としての活用を検討します。(キーワード 6)
- ・黒目川周辺の自然資源の保全とともに、沿川の公園整備や親水性の向上を推進します。(キーワード 12)
- ・地域の主要施設(鉄道駅、商店街、公共施設、公園など)を河川や道路で結び、街路樹などによる道路の緑化を推進し、水と緑の軸づくりを行います。(キーワード 11)
- ・基地跡地について、防災拠点やみどりの拠点など周辺施設と連携した多面的な利用可能性の検討を行い地域の交流と活性化を図ります。(キーワード 22, 10)

- ・地域の関係者が連携し、協力するなど既存宅地の庭木や生け垣などによる緑化を進め、まちなみの形成や潤いのある住環境の向上を促進します。(キーワード 11)
- ・地域に残存する未利用地を活用することにより生活に身近な広場や公園の充実を図るとともに、既存公園については緑化のあり方や防犯対策の検討などにより質的向上に努めます。(キーワード 10, 23)

④市街地整備

- ・市役所をはじめ、主要な公共施設の立地を活かし、朝霞駅前の活性化と連動した回遊性の高い歩道・広場の設置・充実などにより市の中心拠点としての魅力を高めます。(キーワード 2)
- ・地域内の農地については、周辺環境との調和に配慮した保全や計画的な宅地化などを検討します。
- ・木造住宅が密集する地域や、狭あい道路や行き止まり道路が多い地区については、道路基盤などの整備を進めるとともに、建物の不燃化、耐震化などによる防災性の向上を促進し、良好な住宅市街地の形成を誘導します。(キーワード 15, 21)

⑤安全・安心

- ・地域防災計画に基づき、災害時の避難場所の確保とともに、避難場所へのアクセスの向上を図ります。また、住宅が密集する膝折町や栄町周辺の地域については、道路や公園などのオープンスペースの確保を図ります。(キーワード 15, 21, 22)
(V-4-(1)-③)
- ・近年多発する集中豪雨（ゲリラ豪雨）に関する総合的な治水対策に努めます。(キーワード 20)

総合計画と連携してまちづくりに取り組む主な内容

- ・市民と行政による、よりよいまちづくりへの取組を推進すること
- ・地域ぐるみの公園管理や朝霞駅周辺の中心市街地活性化など、地域住民の活動支援を推進すること(キーワード 2)
- ・自然資源や歴史資源などを活かして、より快適な環境を形成していくため、地域住民が一体となって取り組むコミュニティ活動・組織づくりの支援やまちづくりを支えるルールづくりを検討すること
- ・野菜などの地産地消ができる環境を整えること

【地域別懇談会 南部地域活動風景】

朝霞市都市計画マスタープランの見直しに向けて、平成 27 年（2015 年）8 月までに各地域などで計 5 回、地域づくりの方針をまとめる地域別懇談会「10 年後のあなたの地域について考えてみませんか」を、各地域の方々の協力のもと開催しました。

第 1 回 10 年を振り返り、「地域の魅力と課題」をワークショップ形式で話し合い



＜話し合いの結果＞

地域の魅力：自然が豊か（朝霞の森、黒目川）／朝霞駅（便利、治安良い、活気出た）／店が多い／大きなグラウンド
地域の課題：駅前通り商店街の活性化／歩道の整備（駅前バス通り）
 ／基地跡地の早期利用／朝霞第四小学校跡地活用

第 2 回 「地域の魅力と課題」を実際に見に行く「タウンウォッチング」を実施



＜タウンウォッチングで気づいたこと＞

- 市役所通りなどの歩道の整備、観音通線の自転車専用道路の改善
- 川沿いに、ずっと桜道が続き、子どもが遊べる様になったら楽しい
- 基地跡地の自然を活かし、市民が楽しめる場所にしてほしい
- 街がにぎわう若者が気軽に入れるカフェや飲食店があると良い など

第 3 回 第 1 回・第 2 回の結果をふまえた地域のまちづくりの検討



＜検討結果＞

- 土地利用：**国道 254 号（川越街道）沿道の魅力ある商業空間を形成する土地利用の誘導。旧川越街道や駅前の商店街の活性化。駅周辺の駅前通りなどに面したビルの 1 階は地区計画などの活用により商店にすることでにぎわいを創出
- 緑・景観・環境共生：**地域の歴史的資源や自然環境をめぐる散策路の整備や自転車ネットワーク など

第 4 回 地域のまちづくりに関する意見交換会（考えられる取組について）



＜話し合いの結果＞

「旧川越街道や駅前の商店街の活性化」について

- お客を呼び込む／朝霞らしい拠点づくり**
 - ・電線の地中化／イベントができる広場／シンボルロードを結んで周遊性向上／人が集まり、憩い、交流できる場づくり など
- 「駅周辺の駅前通りなどに面したビルの 1 階は地区計画などの活用により商店にすることでにぎわいを創出」について
- にぎわいづくり**
 - ・週末の歩行者天国／オシャレな街並み（道路でカフェ）／ゆっくり住めて、面白い店が点在するまちづくり など

第 5 回 合同成果発表会



- 各地域からの成果発表
- 意見交換